

EAF THE EIKO ALUMNI 95

2021年4月15日発行 ©2021 発行人:栄光学園同窓会・山田宏幸 編集人:高橋英治 印刷所:株式会社さんこうどう
発行元:栄光学園同窓会 〒247-0071 鎌倉市玉縄4-1-1 ☎0467-44-8875 <https://www.eikoalumni.org>

2021年度同窓会定期総会のご案内

2021年度の定期総会は5月29日(土)に開催いたしますが、新型コロナウイルス対策として別途ご案内いたします通り、原則はZOOMを用いたリモートでの開催といたします。

また、栄光祭は6月12日(土)、13日(日)に開催されますが、入場の制限が予定されており、OBの参加が望めないことから定期総会の日程は栄光祭とは別の日程となっております。本年も栄光祭における卒業生故者のための追悼ミサおよび同窓会が主催するOBの部屋は行いません。

栄光学園“未来EiKO募金”について

このたび栄光学園では、教育環境の一層の充実を目指し、“未来EiKO募金”をスタートします。同窓会は、母校が創設する募金の趣意に賛同し、この募金事業を広報などで応援していきます。同窓会員の皆さまには、学園より募金趣意書(パンフレット)等のご案内が別途郵送されますので、詳しくはそちらをご覧ください。また、学園ホームページにも詳細情報がありますので、併せてご覧ください。

旧田浦校舎の見学会

栄光学園創建時の旧田浦校舎は現在、海上自衛隊が使用しておりますが、その建物の解体の可能性が生じていることをうけて見学を行いました。

その様子は朝日新聞にも掲載されましたのでご覧いただいた方もいらっしゃるかと思います。その記事を4ページに掲載いたします。また、当日の様子をアーカイブ動画として同窓会ホームページにも掲載しております。こちらもぜひご覧ください。



募金要項

基金の名称
未来EiKO募金

基金の目的
EiKO会学校の教育精神を発展させるため
持続可能な体制を構築する。

教育内容の充実に対して【教育内容拡充】

- ・海外EiKO会教育機関とのネットワークに基づく交流プログラムの充実
- ・EiKO会教育精神への理解を深める研修プログラムの充実
- ・高経年職を通じた学習機会をより幅広く(遠く)のため、講師招待や校外活動を充実

施設設備の充実に対して【施設設備拡充】

- ・教育機器の導入
- ・教育環境の整備

生徒の修学支援に対して【生徒の修学支援】

- ・公的支援金が少ない・中学校段階での奨学金未実施
- ・家庭状況急変による修学継続困難への対応

基金目標額
3,000万円(毎年)

基金の募集期間
4月1日~3月31日(毎年)

基金基準額
1口につき5,000円以上(単位は必須です。)
※年間での(継続的な)寄付を申し込むことも可能です。
(例:毎年1万円を10年間寄付される)
※基金基準額のご寄付はあくまで目安となります。

お申込み方法

■個人
オンライン寄付の場合
以下「未来EiKO募金」ページよりお申し込みください。
未来EiKO募金 特設ページ

<https://ekh.jp/donate/>
※11月以降にお申し込みいただいたご寄付につきましては、領収書目付が翌年となる可能性がございますのでご注意ください。

金融機関からお振込の場合
同封の払込取扱票をお使いください。

■法人
手続きに必要な書類をご郵送いたしますので、募金事務局までお問い合わせください。

募金趣意書

栄光学園 旧田浦校舎
栄光学園 中高等学校
[お問い合わせ]
未来EiKO募金事務局(栄光学園事務室)
〒247-0071 神奈川県鎌倉市玉縄4-1-1
TEL.0467-46-7711 FAX.0467-44-4008

主な目次 No.95

学園からのメッセージ	2	OB便り	17
同窓会会長ご挨拶	2	支部活動	19
同窓会活動	3	〇〇期、この一冊	20
特別委員会報告	11	歴史文学散歩	29
母校の様子	13	訃報・お知らせ	32

学園からのメッセージ

栄光学園中学高等学校 副校長 林 直人

同窓会のみなさまには、日頃より学園の教育活動に対し、多大なるご支援をいただき、心から感謝いたしております。

ご存知のようにコロナ禍は、依然社会全体に大きな影響を与えていますが、学園でも引き続き、さまざまな変更を余儀なくされています。昨年度は、大きな学校行事は全て中止といたしました。栄光祭・体育祭・歩く大会がなくなり、先日卒業した69期生は、さぞや残念な最後の1年間を過ごしたと思います。ただそのような中でも「充実した6年間を過ごすことができました。」と挨拶した、卒業生代表の渡辺さんの言葉には感激し、少し安堵いたしました。

その他、宿泊で行う行事なども実施が困難となり、中1のオリエンテーションキャンプ・中2の山のキャンプ・中3の京都旅行・フィリピンの姉妹校との交流・ボストン研修など、みな中止といたしました。高2(70期)の修学旅行に関しては、中心学年として行はずの行事が悉く中止となっている事も勘案し、なんとか行き先と日数を変更しても実施したいと判断し、現在8月末に広島への修学旅行を計画いたしております。高3の夏休み中の修学旅行と聞き、懐かしく思われる方も多いかと思いますが、今回は異例の形での夏休み旅行となりそうです。なんとか実施できることを今は祈っております。

こんな状況の中、学園では6月から対面での授業が始まり、2度目の緊急事態宣言下でも休校することなく、授業を続けてまいりました。始業時間を遅らせたり、課外活動を制限したりと、平常通りとはいきませんが、何とか生徒は通学を続けております。幸い校内での感染拡大も現時点ではなく、生徒たちはマスクを常時しながらではありますが、授業中や休み時間の様子は例年と大きく変わることはなく、元気に過ごしております。

ただ、目にははっきりと見えない形で大きなストレスを抱えている生徒がいることも事実です。メンタル面でのケアに例年以上に注意が必要になっております。平常通りと言える日はまだ先になりそうですが、生徒達にとっては、今、この毎日がかけがえのない日々です。感染防止に努めながらも、充実した日々を送れるよう、教職員一同頑張っていく所存です。

ここで本年度の学校行事の日程変更について、ご連絡いたします。例年、5月の上旬に行っている栄光祭ですが、当初は5月8日9日実施予定でしたが、2度目の緊急事態宣言の影響で、準備の時間が全く取れなかったため、延期することを決定いたしました。変更後の日程は6月12日13日を設定しております。ただ現状では入場者を制限せざるを得

ないと考えております。例年卒業生の皆様には、母校を訪問していただける貴重な機会となっていることと思いますが、今回の栄光祭では、ご入場いただくことが出来なくなってしまいかもかもしれません。詳細が決まりましたら、学園のホームページや同窓会を通じて案内させていただきますので、ご理解いただければ幸いです。

別件で新たなお願いをさせていただきます。この度学園では、新しくご寄付をお願いする「未来EiKO募金」を始めさせていただきます。新校舎建築の折には、同窓会の皆様からは多大なる寄付を頂戴し、大変素晴らしい校舎を建築することができました。広大なキャンパスに見事に融合したこの校舎は、栄光の目指す生徒たちの全人的な成長を大きく後押ししてくれています。

一方、この教育環境を維持・発展させていくには、みなさまの財政的なご支援が是非とも必要です。既に手元に募金をお願いする書類が届いているかもしれませんが、趣意をお汲み取りいただきご協力いただけましたら幸甚です。

最後に私ごとで恐縮ですが、6年間務めてまいりました副校長職をこの3月末日をもって辞することとなりました。後任は29期卒業の柳下修が務めることとなりました。在任中の皆様のご支援には大変感謝しております。今後は新副校長を、どうぞよろしく願いいたします。

同窓会会長ご挨拶

栄光学園同窓会会長 山田宏幸 (30期)

会員の皆さま、コロナ禍下、ご無事に、お元気にお過ごしでしょうか。

新型コロナウイルス感染症は、ワクチンの開発、普及で、新たなステージへと移ることが期待されていますが、まだまだ先が見通せない状況です。このような状況下で2020年度同窓会は、当初の事業計画とは大きく異なる形で進めてまいりました。

まず、緊急事態宣言の発出の有無に関わらず、参集してのイベント、会合は極力行いませんでしたし、執行委員会、常任委員会についても、ZOOMでの開催、参加を基本としました。定常的に年複数回の開催を計画した小規模のOBフォーラムは、リアルでの開催が困難なため、講師を含めて全員がWEB上で参加するZOOMによる開催としました。2020年度は2回行いましたが、今後は年4回程度の開催を目指したいと考えています。

また、2020年度は栄光祭が中止になってしまったため、

定期総会もリアルで開催できず、書面決議という形にさせていただきました。当然“OBの部屋ALUMNI”も行えず、OBの部屋と併せて行う予定であった、グスタフ・フォス初代校長先生ご帰天後30年の特別企画も先送りとなりました。

そのような中で、当初2020年度事業計画時には全く想定していなかった、旧田浦校舎のアーカイブプロジェクトは大きな成果だと思っています。田浦時代の母校建物で唯一現存する中学校校舎が解体される前に、その映像を残し、記録と記憶をまとめておこう、という企画です。同窓会ホームページの“アーカイブ事業”に、訪問撮影時の様子やアーカイブ動画などがあります。動画は、プラタモリ風35分の力作ですので、まだご覧いただけていない方は、是非ホームページにアクセスしてみてください。

2021年6月の栄光祭は、コロナ禍下での開催となります。この原稿を書いている時点では、栄光祭のスタイルは確定していませんが、少なくとも一昨年までのリアル・フルオープンでの栄光祭ではありません。このため、OBの部屋、追悼ミサの実施は、難しいと考えています。

定期総会については、通常アロイジオ会館に参集し開催しています。アロイジオ会館は、校舎等施設とは別の建物という学園の認識であるため、栄光祭のコロナ対応とは別で総会等を行ってよいとのことですが、執行部としては、密を避けるためリアルで参集する人数を極力絞り、事前に議案書を各委員に郵送。質問等は事前にメールで事務局宛てに送信していただき、当日は基本的にZOOMでの各委員の傍聴参加、議案への議決権行使については、昨年同様書面で行うといった形を予定しています。昨年に引き続き、委員の皆さまには、ご不便、ご面倒をおかけいたしますが、どうぞご協力ください。

2021年度定期総会の議案では、2年に1度の役員の改選があります。若い力を存分に引き出しつつ、田浦世代、大船創設世代の先輩方との融合を図れるような、幅広、柔軟な執行体制案を考えております。また、幅広い世代に亘って事業を進めていくことを想定し、2019年度から中堅、若手の幹事を中心に行っている“栄光学園同窓会のビジョン検討”特別委員会で整理した方向性、提言を議案書の末尾に掲載し、報告する予定です。

2021年度も引き続き、withコロナでの同窓会運営になる可能性が大きく、WEBを利用したOBフォーラムや各委員会などの開催が多くなると思います。初めて会う人がWEB上で“繋がる”のは、なかなか難しいとは思いますが、我々には、栄光で培った共通の普遍的な価値観があるようで、結構ZOOMなどでも“はじめまして”感が、薄い気がします。また、ZOOMによるメリットも大きく、OBフォーラムでは特に現役世代の参加者が増えた、気軽に参加出来る、各委員会が合理的、効率的に行える、といった効果が表れています。もちろん、リアルで参集する良さも沢山ありますので、

afterコロナでは、ハイブリッドで事業を行い、“EACON”、ホームページ、ALUMNIの充実と併せ、さらなる“人を繋ぐ、人が繋がる同窓会”の促進に繋げていければと考えています。

本ALUMNI巻末の“ちょっと、ひとりごと”でも書いていますが、今年は69期生を新会員として迎えます。また、2023年には同窓会が70周年を迎えることとなります。コロナに限らず、先が見通し難い時代ではありますが、だからこそ、全ての世代、全ての会員が、繋がりたいと思えば、どこかで、何らかの形でいつでも繋がることのできる同窓会に近付けていければと思っております。母校、後援会、姉妹校同窓会とも協調しながら、執行部一同、頑張っまいますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

同窓会活動

第11回栄光OBフォーラムオンライン

事業部

前回開催から実に2年後となる2020年12月26日に、第11回栄光OBフォーラムを開催しました。コロナ禍のため、ZOOMを利用した初のオンライン開催としました。

参加申し込みをネットで受け付け、開催数日前に参加用のID、パスワードをメールで通知していただき、当日サイトにアクセスいただく、という手順でご案内いたしました。

申し込みは230名、当日参加も170名と、大変多くのご参加をいただきました。

ご講演は、参議院内閣委員会調査室長の宮崎一徳さんとJAXA広報部の藤本信義さんで、いずれも29期です。宮崎さんからは、普段あまり知ることのない国会職員による国会運営の舞台裏をお聞かせいただきました。藤本さんからは、開催直前の12月6日に地球にカプセルが帰還したはやぶさ2の回収隊としての活動についてお聞かせいただきました。いずれも、同窓会というプライベートな集まりならではの生々しい情報をご提供いただき、ご参加いただいた方には十分に満足いただける内容となりました。

初めてのオンライン開催でしたが、これまでのオンサイトイベントではありえない人数のご参加をいただけたことや、地方・海外からのご参加もいただけたことから、今後も積極的に活用していくべき形態と認識いたしました。今後の開催にもご期待ください。

広報部註： 3月6日に第12回栄光OBフォーラムオンラインが開催され、いずれも39期の尾道市立大学美術学科教授の小野環さん、千葉ロッテマリーンズチームドクターの雪下岳彦さんが講師を務めました。

アーカイブ企画・シリーズ

「栄光学園旧田浦校舎見学」から「フォス校長特別展」へ

総務部



栄光学園・旧田浦校舎の航空写真



2004年頃の船越基地航空写真

栄光学園・旧田浦校舎と現在(2004年頃)の比較

上の二枚の写真は、昔の栄光学園田浦校舎と、現在の海上自衛隊基地です。ほとんどの建物が解体、改築されていますが、いずれの写真にも一番下にL字が横になったような建物が見えます。これが、栄光学園の旧中学校校舎です。

この栄光学園の旧中学校校舎が近々解体されるようです。同窓会では、海上自衛隊にお願いし、昨年10月28日に昔の栄光学園田浦校舎敷地全体を見せていただき、最後の姿を記録に残すことが出来ました。

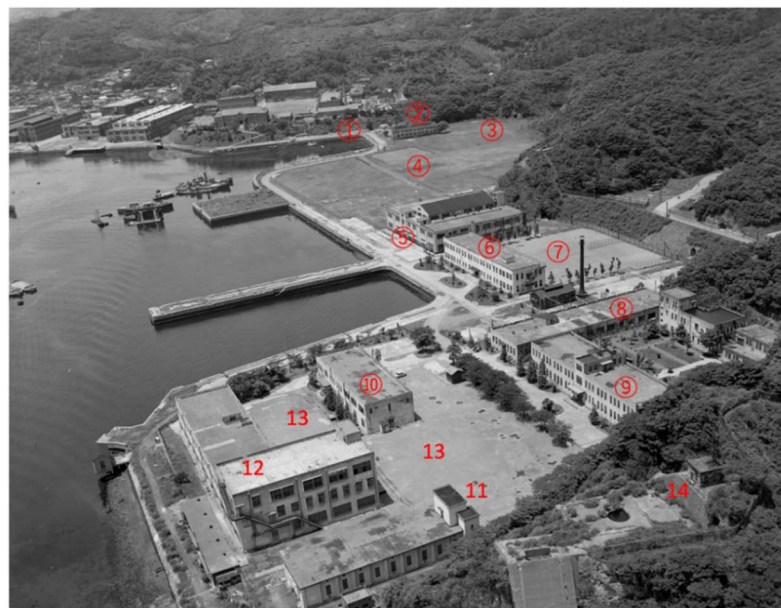
見学は旧正門跡から通学路をたどって、旧講堂前⇒旧体育館前⇒旧高等学校校舎⇒(スロープを上がって)⇒理科校舎跡⇒修道院跡⇒御聖堂跡⇒旧事務所棟⇒中学校校庭⇒中学校校舎内と先輩方の当時の思い出話を収録しながら1時間ほどのツアーです。

参加したのは、田浦で学んだ、1期、6期、10期、13期(2名)の同窓生と、30期の同窓会長、39期の企画・映像担当者。

見学順に、もう少し詳しく各場所の説明を加えます。

(1) 正門跡前 (「栄光祭」開催時にフォス校長特別展で更に詳しく展示するべく準備中)

旧正門前あたり。1946年10月イエズス会から派遣されたフォス神父様が初めてこの地を訪れました。大変な廃墟の跡を見て「この地に学校が出来るだろうか」と暗い気持ちになったとのこと。そのフォス神父様に大きな支援をしてくれたのがアメリカ海軍将校のデッカー大佐。創立当初の話を思い出しながら見学がスタートしました。



- ① 銀門
- ② グリーンハウス
- ③ 野球場
- ④ サッカー場
- ⑤ 講堂・体育館
- ⑥ 高校校舎
- ⑦ 高校校庭
- ⑧ 理科校舎
- ⑨ 修道院
- ⑩ 事務館
- ⑪ 聖堂
- ⑫ 中学校校舎
- ⑬ 中学校校庭
- ⑭ 気象台

栄光学園・旧田浦校舎の詳細

こういった、フォス校長の生い立ち、創立当初のご苦労、建学の精神や教育論、田浦での17年間のご指導などについては「フォス校長ご帰天30年特別展」として纏め2020年の栄光祭で展示する準備を整えてきました。コロナ禍で延期されていますが、2021年遅くとも2022年には必ず開催する予定であります。



旧正門は、現大船校舎の裏門になっています

(2) ユーカリの植えられていた通学路

このユーカリは1958年に、各地の学校に若木を寄付することで新聞紙上にも紹介された通称「ユーカリ爺さん」が寄付してくれたものということです。



(3) 講堂・体育館前での思い出

講堂前では、毎学期末オナス(成績優秀者に送られるカード)の発表があり、成績の評価が厳しかったことなどの話、体育館前では、熊野先生の思い出話です。



(4) 高等学校校舎から理科校舎前までスロープを歩く

岸壁から海に落ちた生徒がいたことなどを話しながら、高校校舎前を過ぎ、理科校舎前のスロープを上ります。このスロープは当時のままです。

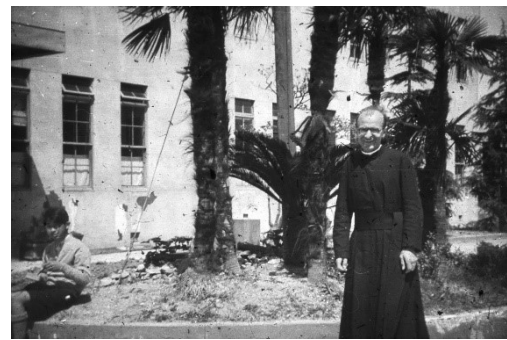
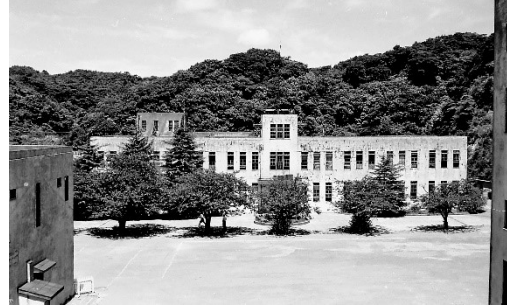


旧理科校舎

(5) 修道院前、懐かしい神父様の写真

修道院前では、栄光学園の特徴ともいべき「神父様のお姿から問わず語りに生徒が受けた勉強の大切さとか国際感覚」とかという話ができました。

修道院前の桜並木は数本が残っていますが、昔の面影はありません。



(6) 御聖堂跡、气象台跡

御聖堂は解体されてなくなっています。气象台もなくなっていますが、その斜面で山岳部が練習をしたという思い出もよみがえってきます。



(7) 事務所棟と校長室(地獄行き)

校長室が2階にあり、そこへよく呼び出されたことなどを話す1期と6期の先輩。後ろの事務所棟は3階建てと増築されています。



(9) 中学校校舎

今でも当時のままの姿で残っています。2階建の方は海上自衛隊護衛艦隊司令本部として使用されているとのこと。ただ、音楽教室や図画教室のあった3階建ての方は老朽化が激しく今は使用できないとのことでした。



(8) 中学校の校庭

当時、テニスコートがあつて軟庭部などがよく練習をしていましたが、今もテニスコートの白線が引いてありました。当時はここで、朝礼が行われました。



教室であった部屋の中にはいると、高い天井、大きな窓など当時を思い出させてくれました。また、窓からは護衛艦が見え昔懐かしく思いました。



校庭から階段を降りると、土曜日など生徒たちが昼飯を食べた土手はあるものの、岸壁が拡張され海辺からはだいぶ離れていました。



この旧田浦校舎見学ツアーは、全編35分ほどの動画に纏められ、同窓会ホームページに1月上旬に公開されましたので、既にご覧になった方も多いと思います。創立から17年間を過ごした田浦での栄光学園の日々の記録の一部です。プラタモリ風に編集した力作ですので、まだご覧になっていない方は、同窓会ホームページ <https://www.eikoalumni.org/> でご視聴ください。

また、「フォス校長特別展(ご帰天後30年～)」もコロナの終息後、パネル等の展示を実施する準備を整えておりますので、是非楽しみにお待ちしております。

「田浦で学んだ頃の思い出を残そう」

今回の旧田浦校舎見学ツアーの動画や新聞記事をご覧になった同窓生から、「田浦で学んだ頃の思い出話」がいくつか事務局へ送られてきております。田浦で学んだ同窓生の皆様で、当時の記憶を記録として残しておきたいとご希望の方は、それぞれの思い出を300～400字程度に纏め、同窓会事務局へお送りください。事務局で纏め適宜編集をし、ALUMNIなどで公開させていただくようにしたいと考えております。なお、編集の都合上、必ずメールで、5月末までをお願い致します。

(例) 事務局に既に送られてきた思い出話

教室にて

教室の窓から見ていたら大きな水上飛行機をぶら下げて運んでいるクレーン船が通っていった。珍しかったので良く覚えているが、それは驚いたことに校庭の波止場に置いて行った。米横須賀海軍からの水上飛行機のスクラップだった。下校の時には放課後に運転席に入って遊んだし、割っ

た窓ガラスは擦ると良い匂いがした。物理のウルフ先生は運転席で計器盤をばらして調べていた。



2020年度事業報告と2021年度事業計画案

総務部

総務部長 青木嘉光 (10期)

2020年度事業報告

(1)「EACONの会員名簿」の利用促進について、メールアドレス欄の初期設定を「公開」に変更した。今後のEACON新規登録者から適用され、利便性が向上する。

(2)計画していた「フォス校長先生ご帰天30年特別展」はコロナ感染が収まらず今年の栄光祭が開催されなかったことから、来年度以降に延期をすることにした。

(3)コロナ禍で活動が制限されたこともあり、事務局と連携し会務遂行をすることは少なかった。

(4)イエズス会校連絡会(JJHAF)は、当同窓会が幹事となり12月20日にZOOMで開催。各校同窓会の近況やコロナ禍での活動について活発な情報交換がなされた。

2021年度事業計画(案)

(1)「フォス校長先生ご帰天30年特別展」を栄光祭に合わせて開催できるよう準備をする。また、その他アーカイブの利用、公開についても検討を続ける。

(2)「EACONの会員名簿」の利用促進について、引続き利用が増えるよう施策を考えていく。

(3)事務局との連携について、前年度と同様個別案件での連携を一層深め、効率的な会務遂行に協力できるようにする。

(4)イエズス会校連絡会(JJHAF)は、本年度も開催の予定である。

*2021年度の事業計画については、①活動サポート部を引き継いでから何をやるか？また、総務部として、②WEB会議などを活用した常任委員会の活性化とか、期委

員との円滑な情報交換などの工夫という二点についても加えたいとも考えています。

ただ、これらは2021年度の執行体制が確定してからによるところがあるので、ALUMNI95号では上述の4項目のみの記載に留めさせていただきたく思います。

＊「総会議案書」の事業計画には記載せねばなるまいとおもいますので、改めて執行委員会などで議論させていただきたいと思います。

事業部

事業部長 増木洋介（30期）

2020年度事業報告

A 同窓会員交流事業

（1）ホームカミング・デイ

コロナ禍による栄光祭中止により、OBの部屋「アラムナイ」の設置はできなかった。

本年度の幹事期を67期としていたが、来年度は67期、68期合同幹事を予定する。

（2）OBフォーラム

コロナ禍に対応して、第11回（12/26）、第12回（3/6）をZOOMによるオンラインで開催した。

第11回では200名以上の申し込み、当日参加170名と、リアル開催以上の方にご参加いただき、アフターコロナにおいても有効な開催方法であると考え。運営としてもメリットが多いため、持続可能な仕組みを検討のうえ、定期的な開催を目指していく。

（3）歴史文学散歩

コロナの落ち着いた具合を見極めつつ、6期三春勝正氏、14期大島弘尚氏を中心に、11月に歴史文学散歩を実施した。

（4）J J H A F 共同イベント

コロナ禍により、実施検討を進めることができなかった。

B 在校生支援事業

（1）OBゼミ講師派遣

コロナ禍による学園の休校等により開催日程が大幅に変更となったが、例年通りに高1ゼミ及び公開ゼミへのOB講師の派遣を行った。本年度は30期と40期が担当した。

2021年度事業計画(案)

アフターコロナへ、例年実施していた事業の継続と、新たな取り組みを試行しながら取り組んでいくこととする。

A 同窓会員交流事業

（1）ホームカミング・デイ

栄光祭が開催と合わせてOBの部屋「アラムナイ」を設置し、同窓生交流の場を提供する。ただし、設置方法は従来通りに加え、オンライン形式も検討していく。本年度の幹事期は67期、68期合同とする。

（1）OBフォーラム

コロナ終息状況を見極めつつ、オンライン開催とリアル開催、併用開催で定期的な開催を目指していく。概ね四半期ごと、4回の開催を予定している。

（3）歴史文学散歩

コロナ感染防止の配慮を前提に、6期三春勝正氏、14期大島弘尚氏を中心に、年4回の歴史文学散歩を行う。

（4）J J H A F 共同イベント

コロナ終息状況を見極めつつ、第二回の4校共同イベントの開催を目指す。

B 在校生支援事業

（1）OBゼミ講師派遣

高1ゼミ及び公開ゼミへのOB講師の派遣を行う。当年度は、31期と41期が担当する。

活動サポート部

活動サポート部長 島崎裕之（26期）

2020年度事業報告

（1）各期活動支援

コロナ禍において、リアルな同期会開催の報告はなかったが、少人数ながらリモートで開催された期の報告もあった。

（2）支部活動支援

コロナ禍において、支部の総会等の開催報告はなかった。その中で新規に3月13日をもって、念願の関西支部が設立された。昨年設立予定がコロナ禍により1年延期され、かつ環境が改善されないため、リモートによる総会となり、また支部代表の講演会も直後に開催された。来賓5名を含む49名の総会参加があり、また会員も設立時点において79名に達し、地域支部の中では大規模なものとなった。

（3）その他活動グループ支援

例年8月によりみりゴルフ倶楽部で開催されているオール栄光ゴルフコンペは、止む無く今年度は開催を見送った。

（4）社会貢献活動支援

本年度も東ティモールイエズス会校への支援を行った。

（5）特別委員会との連携

同窓会の在り方や活性化について、特別委員会において活発に議論および若手との意見交換等もなされ、各期・同世代の活動や支部・業界等の課題も当委員会が主体となっていった。

2021年度事業計画(案)

各期・支部等の活動活性化は、特別委員会が主体となり推進してゆく。活動状況の把握と管理は総務部に機能を移管する。

広報部

広報部長 高橋英治 (28期)

2020年度事業報告

(1) 会報アラムナイ

The Eiko Alumniは10月上旬に94号、2021年4月上旬に95号を発行。95号では一部カラーページとした。

コロナ禍によるイベント自粛で投稿の減少が顕著になっている。

〇〇期、この1冊は95号以降も継続して掲載したい。

(2) 同窓会ホームページ

一部のブラウザで安全なページではないと表示されることから、暗号化通信に対応するSSL証明書を取得し、URLをhttps表記とした。

ホームページの定期更新を維持し、旧田浦校舎訪問の際に撮影した動画を掲載できるようにした。

〇〇期、この1冊は独立ページ作成予定。

(3) EACON

EACONの運用については名簿機能を中心に継続して運用を推進する。

69期の会員リストページを作成した。

2021年度事業計画(案)

(1) 会報アラムナイ

The Eiko Alumniは10月上旬に96号、2022年4月上旬に97号を発行予定。

未来EiKO募金については継続的に裏表紙に案内を掲載予定。

(2) 同窓会ホームページ

学園の未来EiKO募金紹介ページへのリンク作成。

アーカイブページのコンテンツ充実。

(3) EACON

会員リストの更新予定。

財務部

財務部長 近藤亮介 (45期)

2020年度事業報告

会費請求については、口座振替に移行済みの会員に対して当年度分2,500円の引き落としを実施した。また、振り込みで納入している会員については、第3グループ781名を対象に、4年分(未納がある場合には8年分)一括振り込みの郵便振替の案内を送付した。さらに、前年度までに請求した第1、第2及び第4グループのうち未納の会員2,859名にも再度納入を依頼した。

当年度も前年度から引き続き、各種イベントの参加者で会費が未納である会員について積極的に納付をお願いする等、地道な会費納入依頼活動を実施しており、引き落としで納入する会員が増えた影響で会費納入率は前年(44.0%)を上回る45%程度となる見込みである。

また、コロナ禍のためリモートでの会合が増加したこと等の影響で、経費の各項目が全体的に減少しており、年度の収支については1百万円程度の黒字となる見込みである(前年は2百万円の赤字)。

2021年度事業計画(案)

会費納入については、前年度から引き続き会費情報のデータベースを利用して、同期会、支部及びOBフォーラム等各種イベントの参加者で会費が未納である会員について積極的に納付をお願いし、納入率50%超を目指していく。また、より簡単に会費が納入できるようにするため、会費のコンビニ払いについても検討を行っていく。

今後は、会員へのサービスをさらに充実させていくという観点からより健全な収支モデルを構築していき、大きく変化している同窓会を取り巻く環境に適切に対応していきたい。

特別委員会のご報告

「栄光学園同窓会のビジョン検討」

河原光博、村井基彦（37期）

2019年度に設置された「栄光学園同窓会のビジョン検討」特別委員会は、2020年度も活動を継続して参りました。2019年度は、主にこれまでの同窓会の活動をライフタイムに対する時間軸に整理、可視化することにより、今後の検討のベースを整えました。2020年度は、上半期に若手会員のニーズを把握し事業運営のヒントとすべく、卒業3年目(大学3年生)の同窓生との懇談会を試行しました。これらは、既にALUMNI93号・94号でご報告して参りましたので、そちらに目を通していただければ幸いです。

さて、2020年度下半期では、同窓会活動のベースとなる組織体系や理念に立ち返り、現在の同窓会の組織や活動形態、会則や内規等を、現状の課題の共有も含めてディスカッションを行ってきました。

本特別委員会は、上半期に引き続きZOOMによるオンライン会議で開催しました。下半期になると接続でのトラブルもほとんどなく、少々のトラブルも落ち着いて対応できるようになりました。また前後の予定の合間に「今日は最初の30分は出られます」等、移動時間を考慮せず自分の時間の許す範囲で参加できるようになり、昨年度までより幅広いメンバーに出席していただけた。特に若手メンバーからの要望が強かった情報インフラの活用により、参加者の裾野が広がりこれまでよりも多様な意見を持ったメンバーと議論できたという実感があります。

本稿では、直近の検討内容について一部をご紹介します。

同窓会の組織は？

会員の皆さんの中でも、同窓会の組織体系をご理解されている方は決して多くは無いと思います。図1は同窓会の

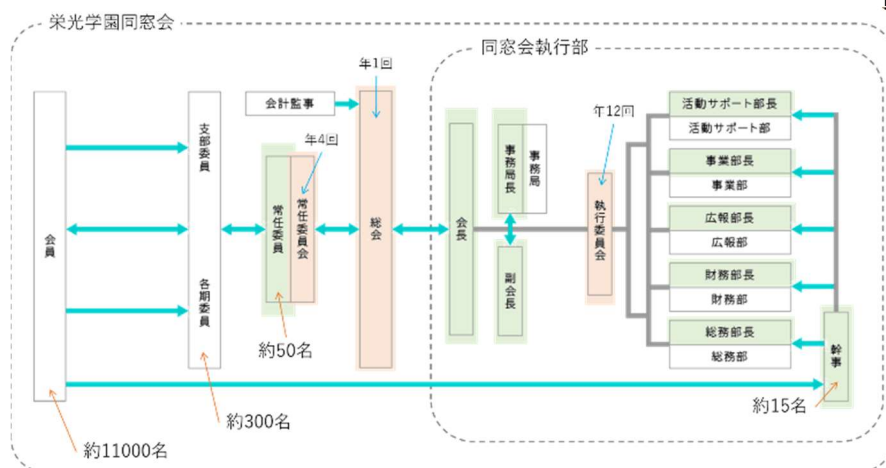


図1: 同窓会組織図(同窓会HPに加筆)

HPに掲載されている組織図に、数字も含めた注釈を少し加えたものです。

2021年3月卒業の69期生まで毎年約180人ずつの新入会員を受け入れ、現在会員の総数は11,000名を越えて来ています。同時に、期委員と支部委員が320名いることも分かります。期委員はそんなにいるのか？と思われる方もいらっしゃると思いますが、卒業時に各クラスから1名と考えると、1学年4名×69で276名となります。これに支部委員が加わると320名ほどになります。

同窓会の会則では、この約320名は「代議員」として年1回の総会に出席することとなっています。会場であるアロイジオ会館の収容可能人数を考えると、全員が総会に参集するとなると会場の変更などを検討する必要があります。もちろん、実際に全員が参集すること今までありませんでしたが、総会は「同窓会の最高意思決定機関」として会則に規定されています。同窓会の意思決定の透明性を高め、幅広い会員の意見を尊重する観点からも、本特別委員会では、今年度進んだZOOMなどの情報インフラを活用したオンライン併用での開催や、会の進行の仕方などについて議論しております。

議論をして改めて感じること

昨今盛んに言われている”SDGs”とはやや趣は異なりますが、山田会長から本特別委員会に投げかけられていることも、実のところ「持続可能な同窓会活動の在り方」ではないだろうか、と議論を通して改めて感じます。図2は2019年度の議論で整理された同窓会の事業活動と本特別委員会からの提案です。OBゼミとの連携による「OBフォーラムの定期開催」やウェビナー(オンラインセミナー)化などは、本特別委員会での議論に参加いただいた執行部のメンバーを中心に2020年度に実現しています。

本特別委員会では、こうしたイベント等の事業・活動の整理だけではなく、会則を読み直しながら会費や広報の在り方などについても議論をしています。実際に会則や細則を丁寧に読みながら同窓会の事業や運営を議論

してみると、同窓会の長い歴史の中での貴重な経験や知見が細部に活かされており、諸先輩方の知恵に気づかされるとともに、これまでの労苦に頭が下がる思いです。

一方で、構想中の「ビジネス部会」(仮)が目指す、会員の持つ多様な知見を幅広い世代の会員の「ビジネスにおける成功」に活用したいという取組や、66期生による「栄光学園大学」(※)と称した在校生・卒業生にオンラインで学びの場を提供することを目的とした取組など、世代の枠を越えた縦の繋がりに着目し、会員の多様な発想

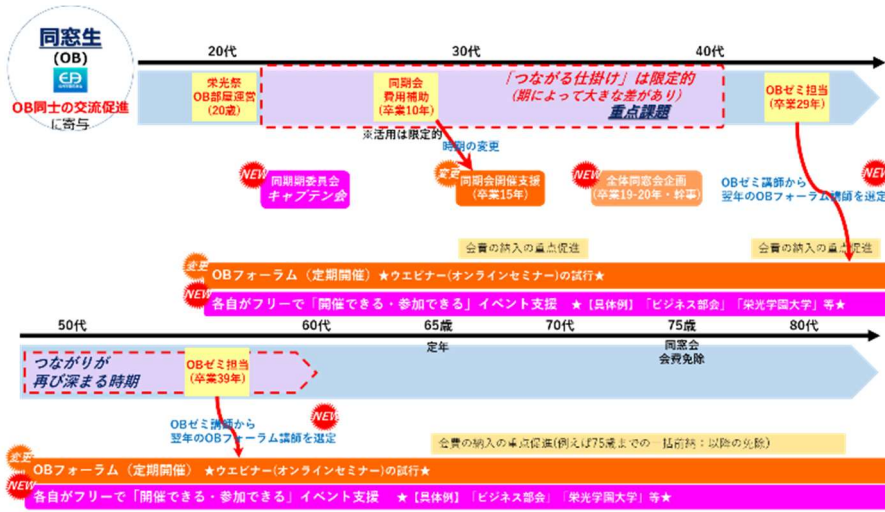


図2: 同窓会の各種事業やイベントの整理と提案

による活動をタイムリーに後押しをして行きたいと考えています。会員の多様な活動をタイムリーに把握しサポートするためには、会員のニーズを広く吸い上げる仕組みの構築や機動性の高い組織づくりなどが求められると感じます。

※ 最近「栄光学園大学RADIO」と称し、YouTubeで定期的にラジオ番組を配信をするなど進化し続けています。

本特別委員会では、これからの同窓会運営にあたりベースとなる考え方を残りの時間を使って引き続き議論し、論点を整理をしていきたいと思ひます。

2020年度OBゼミ

事業部

8月26日

"車づくりを変革するデジタルトランスフォーメーション"

藤田 浩司(30期)日産自動車(株) 品質管理システム部 部長

9月2日

"脳が作られるしくみ 一医師として研究すること"

仲嶋 一範(30期)慶應義塾大学医学部 解剖学教室教授

9月9日

"建築によって、何をつくるのか"

小泉 雅生(30期)小泉アトリエ代表、東京都立大学教授

9月23日

"2040年の社会をつくる 一社会を設計するしごと 社会保障の観点から"

八神 敦雄(30期)内閣官房 健康・医療戦略室次長

9月30日

"気象・気候と生活の関わり 一「これまで」と「これから」"

林 宏典(30期)日本気象協会 事業本部 環境・エネルギー事業部 専任主任技師

10月7日

"弁護士という職業の選択及びその仕事"

森崎 博之(30期)TMI総合法律事務所 弁護士

10月21日

"変わる芸術、デジタルクリエイション"

浅川 正樹(30期)横浜美術大学 美術学部 美術・デザイン学科教授

10月28日

"日本の防災・世界の災害"

石渡 幹夫(30期)国際協力機構(JICA) 国際協力専門員 / 東京大学大学院 客員教授

11月4日

"商社で働くとは、その仲間と、その思い"

菊地原 伸一(30期)三井物産(株) 執行役員コーポレート・ディベロップ本部長

11月11日

"国際文化交流って何だろう"

鈴木 勉(30期)国際交流基金 マニラ日本文化センター 所長

11月18日

"公共メディアでの仕事～テレビからネットへ～"

東 聡(40期)NHK報道局 記者

11月25日

"自由に生きよう～音楽家から建築家へ"

坂野 正崇(40期)建築家 i-ado主宰

12月2日

"ネット時代のジャーナリズムと新聞の展望、及び文化報道の意義"

西田 浩(30期)読売新聞 文化部編集委員

1月13日

"編集者・広告プランナー・TVコメンテーター ～コミュニケーションを仕事にする"

五百田 達成(40期)作家・心理カウンセラー

1月20日

"激動の金融業界で学んだこと ベンチャー企業経営とエンジェル投資家への道"

塚本 隆史(40期)新生銀行

1月27日

"宇宙の仕事 ～宇宙開発から宇宙の利用まで"

小坪 秀明(40期)三菱電機 鎌倉製作所

2月10日

"化学を基礎とする仕事の紹介 ～大学・企業の研究職、学

術データベース, 特許調査"

原田 学(40期)化学情報協会 特許調査部 専門調査員
2月17日

ポスト終身雇用時代のキャリア形成

佐々木 健太郎(40期)シュローダー・インベストメント 株
式アナリスト

2月24日

学びたいことを学ぼう ～文化人類学者から日本語教師

佐藤 剛裕(40期)フリーランス

3月3日

人事コンサルっぽい立場から見た、雇うこと・働くこと

西條 達(40期)西條社会保険労務士事務所 代表

母校の様子

「学園通信」より

八木英樹 (9期)

1. 日帰り遠足

コロナ禍で栄光学園恒例行事が軒並みに中止に追い込まれる中で、中1、中3、高1が学年ごとに、10月下旬から11月中旬に日帰りでの遠足を敢行しました。それぞれが自分達で趣向とコロナ対策を企画し、無事に戻ってまいりました。

以下、各学年の参加者の感想です。

中1:

午前9時15分、小田原駅西口に集合。バスで、南足柄市にある「あしがらロープスコース」に向かう。現地ではグループ(15名程度)に分かれ、ファシリテーターの方の支援を受けながら、活動した。午後4時頃、小田原駅にて解散。



KW君 (中1)

遠足に行く前日はアスレチックが楽しみで、ウキウキ準備をするなど待ち遠しかった。当日、グループ活動が開始され、最初は皆で輪になって、手助けしてくれる「ころすけ」(ファシリテーター)の言うことに従いながら、きれいな輪を保った。

案外難しかったし、成功したときには嬉しかった。そういう活動から始まり、最後は高いところで綱渡りをするというスリリングなアスレチックだった。それには、それぞれ役割があって、皆で協力しなければ危険を伴うものだった。活動自体、ヒヤヒヤしたときもあったけれど楽しかった。それに加え、学んだこともあった。今回の活動は最初から最後まで、皆で協力してひとつのことを成し遂げるというもので、特に最後の活動は「協力」が非常に大切だった。皆で協力してひとつのことを成し遂げる団結力は大事だと学んだ。

SF君 (中1)

コロナウイルスが収まりつつあった頃、多くの行事が中止になる中で秋のキャンプはできるのではないかと期待していました。一方、このような時だから春のキャンプのように中止されてしまうのではないかと考えていました。夏休み明け、出された決定は「日帰り」。この決定に僕は半分安心し、半分残念に思いました。しかし当日は同じグループの人たちと協力して課題をこなしていく過程に充実感を得ることができました。栄光学園に入ってから初めての校外遠足は、このような時だからこそ、大事な思い出になりました。



中3:

HK君 (中3)

今回の遠足で、僕たち72期生は箱根にある恩賜箱根公園、関所、箱根神社の3つに日帰りで行ってきた。実は僕自身、今年の夏休みに箱根に行ったばかりであったが、これらには行けなかったため、行けてラッキーだった。そして何より、このウイルス流行の中で遠足が出来たことに感動している。

と満足だけしていても何にもならないので、クラス委員として振り返る。修学旅行の練習という位置付けであった今回の遠足で、僕は計画において正直ほぼ何も関わっておらず、委員としての意識もフワフワとしていた。「自覚」の「j」の字もなかった。非常に反省しているし、僕を頼ってくださっている方々には申し訳ないと思う。

ただ、この遠足を機に、クラス委員としての意識を少し変えることが出来たのではないかとと思う。こんなに多くの人を引っ張っていかねばいけないのに、自分は何をしていたんだろう、と。修学旅行では、周りの信頼に応え、委員としての

責任を果たしたいと思う。

最後に、僕たちを支えてくださった先生方、協力してくれた72期たち、頼りない僕を温かく見守ってくださった担任団の方々、そしてクラス委員の仲間へ感謝いたします。僕たちは修学旅行に行くことを強く望んでおりますが、その時もよろしくお願い致します。

YK君（中3）

箱根遠足の計画が出たのは10月の最初、先生方が72期でどこかに行って楽しまないかと提案してくれたのがきっかけです。クラス委員で話し合い、どこに行くか何をするか決めようとしたのですが、なかなか決まらない。決まらない理由は2つあり、1つ目は箱根に行くか、横浜に行くか。これを決めるためにかなりもめてました（それもそのはず。意見が丁度半々に分かれていたのですから）。2つ目は、コロナウイルス関係で、公共交通機関は使えないという大きな制限があり、自由に行動できない。ただ他のクラス委員のおかげで箱根に行くことが決まり、安心しました。

こうして箱根に行くことができ、何事もなく楽しく帰ってこられました。

最後に箱根遠足を手配、実行してくれた先生方、他のクラス委員に感謝します。



高1：遠足 箱根彫刻の森美術館 2020.11.12

委員長 MF君（高1）

この遠足は高1の間の数少ない貴重な思い出となりました。また、新型コロナウイルスの影響で今年度の様々な行事が中止になる中、楽しい遠足を考えて下さった先生方に感謝します。

僕はクラス委員企画のまとめ役を通して、様々な経験を得ることができました。その中でも特に視野を広げることができた考えを2つ紹介します。

まず、仲間と協力することの重要性です。一見当たり前にできることのように思えますが、全体をまとめる為の役割分担をどのようにしたら良いのか分からず、また仕事を頼むことに少なからず罪悪感を感じてしまいすべてひとりでやっけてしまいました。しかし、先生から他の人に仕事を頼むのもリーダーの役目だと助言をしてもらい、やるべきことをみんなで分担しました。そうすることで僕自身の負担が減り、仲間の意識も高まり、全体を見て指示を出すこともできました。適材適所をすることがより良い運営につながると思いました。

次に、企画の考え方についてです。クラス委員会議では、全員が楽しめる企画を作ろうと考えていて、特に美術館があまり好きでない人に興味を持ってもらう企画案を話し合っていました。しかし、僕はそのような案に対して心から賛同できるとは言えませんでした。

そして、そのように感じるのは自分がその企画が楽しいと感じていないからだ気づき、誰かを楽しませるためにはまず自分が楽しめるものを作るべきだと思いました。

このように貴重な経験を遠足の企画によって得ることができました。今回の遠足は、コロナ対策を徹底しながら楽しむことができたので、この経験をもとに高2の修学旅行などの企画も考えてみたいです。

企画班 KS君（高1）

今年、新型コロナウイルスの影響で栄光祭や体育祭、歩く大会といった栄光学園の恒例行事が軒並み中止になってしまった事は僕達栄光生にとって極めて残念でした。そんな中で担任団の先生方から今回の箱根彫刻の森美術館遠足企画のお話を頂いて凄く嬉しかったです。

今回の遠足企画に際し、僕達クラス委員は遠足委員を組織し、「高一全員が美術館所蔵の彫刻作品を積極的に観賞して貰い、遠足の1日を最大限を楽しんで貰う」という事を第一目標として当日までの約一ヶ月間度々会合を開いて議論し、有志メンバーによる現地の下見を行った上で、美術館所蔵の全彫刻作品を題材とした写真コンテストを企画しました。

今回の企画では特定の作品付近に栄光生が密集しないようにする為に敢えて題材の彫刻作品を指定する事なく題材自由での写真コンテストを行う事を決定しました。このご時世ですので、僕達クラス委員には様々な懸念がありました



が、実際当日を迎えて見ると各班が美術館で飽きてしまう事なく、各々の興味・趣向に合う彫刻作品を熱

心に観賞してその彫刻作品を題材とした写真を撮影してくれて、密集しないという感染防止の観点での目標を達成できただけでなく、全員に彫刻作品を積極的に観賞して貰うという企画での第一目標を達成できて遠足委員の一員として満足していると同時に、参加した高一全員にとって2020年の掛け替えの無い思い出になったに違いないと確信しています。

今回、遠足の企画をさせていただいた担任団の先生方にクラス委員の一員として、高一生徒の一員として心から感謝しています。

2. 部活の活躍状況

部活が栄光生の学園生活において大きなウェイトを占める点は今も変わっていないようです。軟式野球部を始め、対外試合で勝ち上がっていく実力を示しておりますが、ここでは物理研究部のロボット班と英語部の即興型英語ディベート全国大会での活躍をお伝えします。

物理研究部:

FLL班公式チーム「今、鎌倉。」

FLL東日本大会・Japan Open参加記

YM君 (高1)

物理研究部FLL班は、2019年度に初めて発足した班です。2019年度の目標は、「First Lego League(以降FLL)」というロボットの国際的な大会に出て、世界大会出場権を獲得することでした。初参加の大会で、私たちのチーム「今、鎌倉。」は全国7位に入賞し、世界大会出場権を獲得しました。ここでは、FLLとFLL班の2019年度の活動について紹介します。

FLLは、9歳～16歳を対象とした世界最大規模の国際的なロボット大会で、日本では2004年から開催されています。現在、世界110か国、毎年約7万チームが参加します。FLLでは毎年世界7か所程度で世界大会が行われます。私達が参加した2019-2020シーズンは、10位以内に入賞した場合、デトロイト、カリフォルニア、アーカンソー、ギリシャ、ブラジル、オーストラリア、そして名古屋で開かれる大会のうちどれかの参加権を手にできました。

大会では、4つの競技を行います。①LEGOでロボットを

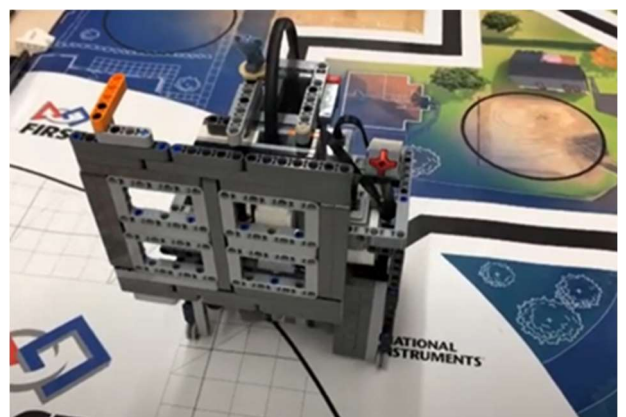
作り、プログラミングして、多数のミッションをクリアする「ロボットゲーム」。②作ったロボットについてプレゼンする「ロボットデザイン」。③ロボットとは別に、毎年出されるテーマに沿って研究を行ってプレゼンする「プロジェクト」。④チームワーク・チーム運営について発表する「コアバリュー」です。

私たちは、「ロボットゲーム」では、縦横に動かすことのできる機構を採用し、この構造を採用したロボットでは(たぶん)世界最小のロボットを作成しました。ロボットはセンサーやモーターを備えていて、ラジコン操作で動くのではなく、プログラムに従って自動で動きます。「プロジェクト」の今年のテーマは「建築・都市開発」でした。私たちは「車いす利用者が使用できるトイレが不足している」という問題を解決するため、「車いす利用者が一般のトイレを使用できる装置」を半年かけて開発しました。トイレメーカーの技術者の方や、福祉アドバイザー、実際の車いす利用者の方に何度もアドバイスを頂き、改良を重ね、試作機を3つ作成し、4号機については福祉機器メーカーの方と設計図の作成までを行いました。

東日本大会も日本大会も、スケジュールは同じように、受



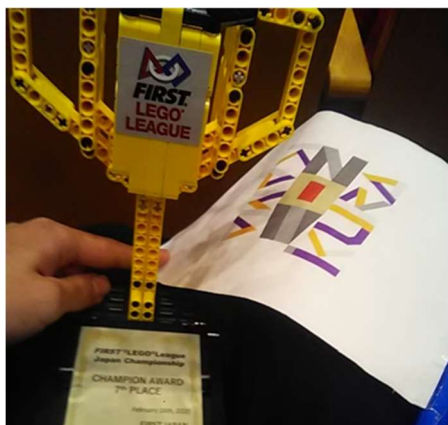
車いす利用者が一般のトイレを使用できる装置(試作3号機)



全国大会に向けて作成したロボット

付→ブース設営→開会式→4つの競技(順番はチームによって異なる)→閉会式(結果発表)という流れです。

日本大会では、東日本大会の反省を上手く活かすことができました。プレゼンについては、ルーブリックに従って、満点を目指して推敲を重ね、ロボットは東日本大会より33%小



受賞トロフィー

型化しました。東日本大会では活動時間が足りず凝れなかったブースは、日本大会ではクオリティを高め、チームのロゴが入った旗を持って、ロボットゲームの競技中に振って応

援したりしました。

閉会式の心境を述べます。当日思うように成果がでておらず、とれて10位だと思っていました。しかし、10位から8位まで違うチームが呼ばれました。落胆していた矢先、まさかの7位でチームの名前が呼ばれます。この日まで努力してきたよかったと思える瞬間でした。

上の写真は、トロフィーと、当日振った旗です。トロフィーは職員室に飾ってあります。

初年度の「今、鎌倉。」の実績は、初出場にして東日本大会5位、日本大会7位入賞、そして米アーカンソー州で行われる世界大会「RAZORBACK Open Invitational」出場権獲得という快挙を成し遂げました。しかしながら世界大会は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、残念ながら中止となってしまいました。次世代の班員達には、私たち以上に努力して頂きたいです。今後は、FLL日本一を目指す他に、World Robot Olympiad (WRO)や宇宙エレベーター競技会などにも出場します。

英語部

第3回PDA中学生即興型英語ディベート全国大会
PDA全国高校即興型英語ディベート合宿・大会2020 優勝

2020年3月21日(土)に、オンライン上(ZOOM)で第3回PDA中学生即興型英語ディベート全国大会が開催され、本校から71期中嶋大耀、永田唯一、岡村隆聖が参加し、予選2試合を勝ち抜き、優勝しました。また、同3名は2020年8月8日(土)、9日(日)開催のPDA全国高校即興型英語ディベート合宿・大会2020にも参加し、全勝で予選を勝ち抜き見事優勝しました。各試合は審査員の投票で勝敗が決まるのですが、この大会では3試合の練習ラウンドから決勝戦まで1票も落とさませんでした。以下、大会概要と参加生徒の感想です。

第3回PDA中学生即興型英語ディベート全国大会 (全て

勝ち)

Round1: Bringing snacks and soft drink to junior high school should be allowed.

Round2: Closing schools to combat the COVID-19 has brought more benefits than harm.

Final Round: Recreating the dead in VR does more benefits than harm.

PDA全国高校即興型英語ディベート大会2020 (全て勝ち)

Practice1: A grade should be decided based on learning outcomes.

Practice2: A fat tax should be introduced.

Practice3: Persons who spread a virus on purpose should be sentenced to death.

R1: Japan should accept more foreign refugees.

R2: Japan should legalize euthanasia.

R3: A pet tax should be introduced.

SF: Authoritarianism is better than democracy during the COVID-19 pandemic.

GF: A life imprisonment should be imposed on a person who lead others to commit suicide with slander.

「戦友」

RO君 (高1)

僕は中学一年の冬、英語部に転部した。当時僕の英語は至って普通で勿論帰国子女でもない。数多の転部先の中から、なぜ英語部を選んだのか。正直自分でもさっぱり分からない。しかしこの直感的な選択が、僕の中高生活の一つ目にして最大の転機になり、僕の原点にもなった。

英語部に足を踏み入れた初日。僕は衝撃的な光景を目の当たりにした。僕とたった2、3歳しか違わない先輩たちが、立て板に水の如く「英語」を武器に闘っていたのだ。これが僕の「ディベート」という頭脳の格闘技と出会った、二つ目の転機である。

これらのきっかけは、僕に「英語」と「ディベート」という二つの青春を与えた。それまでただ勉強だと思っていた英語が、まるで戦闘アニメのかっこいい武器のように映るようになった。ディベートをやっていく中で尊敬できるライバルや、最強の仲間に出会うこともできた。いつの間にか、英語部に居場所を見つけ、そこでどこまでも強くなっていける可能性を感じた。そのことが、ただただ嬉しかった。

今回の二つの全国優勝は、その結果といえるだろう。特に「チームワーク」における成長には目を見張るものがある。今回のPDAという形式の即興ディベートは、論題が出てからの準備時間は「たった15分」である。だが、それに甘えチームでの共有を怠り矛盾を起こせば、敗北は必至だ。いかにこの時間を最大限利用するか、一分一秒たりとも無駄には

できない。チームワークが肝要なのである。

例えば僕の役目は、準備時間にチームの司令塔となる所から始まる。まず、論題が発表されたら即座に、僕は「勝ち筋」を見極め、迅速に方針をメンバーに伝える。言うまでもなく、このままでは浅い。だから反論を担う永田が、これに容赦なく緻密に計算されたダウトをかける。然るべくして、脆弱な「方針」は盤石な「論理」へと化ける。最後に、複雑化した議論を見事に収束させるのが、立論の中嶋だ。彼はこの3人の中で、一番早くに立論を組み立てスピーチしなくてはならない。勿論永田も試合中は反論まで行う忙しい職である。したがって僕のミッションは、一分でも多くの時間を彼等に残すことなのだ。最強のメンバーたちの最強のスピーチがあるからこそ、最終弁論者の僕は、最強の比較を打ち出せるのである。

「チームワーク」とは何か。僕ならば、迷わずこう答えるだろう。単にメンバーと仲良くなれということではないし、メンバーを絶対的存在だと思い込めというものでもない。共に闘う戦友が、何が「得意」で何が「苦手」なのかを分析し「信じるべきところを信じ、補うべきところを補う」これがチームワークなのだ。負けない為には「妥協のない信頼」が不可欠である。これらを達成して初めて勝利の頂きが見えてくる。そのことを体感できたのは、勝利以上に大きな収穫であった。

OB便り

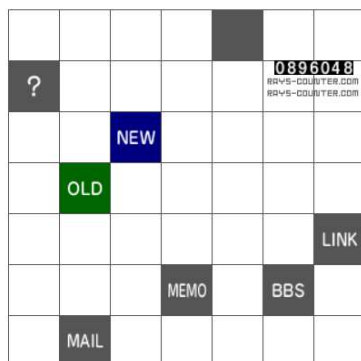
このコロナ禍にパズルはいかが？

土屋芳生（14期）

毎週クロスワードパズルを創ってホームページに掲載しています。その数は2000近くになりました。

Crossword Puzzle

窓際エグゼクティブに贈るトイスターのクロスワードパズル



市販の婦女子むけのパズル誌と違って難解です。

滞っている箇所の脳力をふたたび活性化したいと願う諸兄に挑んでもらえれば本望です。

タイトルは「トイスターのクロスワードパズル」、

URLは <http://toyster.sakura.ne.jp> です。

栄光精神と華厳の波動

石井龍雄（7期入学・8期卒業）

カンボジアの僻村でボランティア教師になった横浜双葉の校長

2006年の春。7期の同窓会幹事が、同じカトリック系の横浜双葉校で校長をしていた漆原隆一君の話聞く会を、逗子市の公民館の一室でひらいた。卒業後も兄弟のようなつきあいが続き、同窓会やゴルフ、新年会・忘年会などの集まりがあったが、これは臨時の会だという。

愛らしい少年だった漆原君は、白髪の紳士に変身していた。同級会には一度も出席したことがないと詫び、カンボジアのオー村の小学校で、ボランティア活動をしている、できれば御支援をと、そのいきさつを話しはじめた。

プロジェクターから映し出されたスクリーンには、窓ガラスのない掘っ立て小屋のような教室に、裸足や上半身裸の子らが群れていた。ただ不思議に、どの子の顔も屈託がなくて明るい。

カトリック神父になろうかと考え上智大に進んだ漆原君だが、神学科ではなく西洋史を専攻し、双葉の教師になった。50代半ばで校長になり、そのまま学園にいても良かったのだが、65を前に自主退職。息子がカンボジアで働いており、激励がてら旅行にいったところ、たまたま覗いた現地の小学校のあまりの酷い学習環境と、小学校にすら通えない子らもいる貧しさに愕然とした。

そこでアンコールワット観光の拠点であるシェムリアップ市に居を移し、オー村にはジープで往復しながら、ともにカトリック信徒である音楽家の妻恭子さんと支援活動を始めたというのである。

私は中3で洗礼を受けたが、とうに廃刊になった校内誌『栄光』の編集長をしていた高2の時に「不良」として睨まれ、クリスチャン教員たちの問答無用の非寛容にあい、落第の憂き目にあった。そのため、早くに教会から遠のいていた。

早稲田に進んでから、和辻哲郎の『風土』を手はじめに、中央公論社の『世界史』を通読した。暗黒の中世、十字軍、

魔女裁判、ガリレオの弾圧など、ローマ教会が関わる過去は、頂けないことが多すぎた。

きわめつきは、30代半ばに、宝石で飾られた金ピカの大型聖書を見た時だった。新婚旅行の途次に、バチカン美術館を訪れたところ、金ピカ聖書が何冊も陳列されていたのだ。キリストの清貧の教えとは真逆のシロモノを、わざわざ展示している理由は何だろう。権威の誇示か、自虐まじりの反省か？

どちらにせよ、苛斂誅求に喘ぐ庶民たちの顔が見えた気がして、「こりゃダメだ」とローマ教会の俗物性に、心底愛想をつかした。

ところが、漆原君夫妻の慈善は、教会の傲慢な専横とは無縁の、個々のキリスト教徒が、過去2千年の歴史の至るところで示してきた「善行」の典型ではないか。「善行」とは相手の存在を認め、「一緒に頑張りましょう」と言葉と行為で伝え、言葉がダメなら心で伝える共生への願いを言う。

「隣人愛」と「免罪符」

狂気の共産主義者ポルポトにより、200万人が殺されたカンボジアの惨劇は、ハリウッド映画『キリング・フィールド』で世界に知れわたった。だが歴史や政治の非を数えたてても、オー村の子らは救えない。

人生が50年だった昭和前期までの還暦老人とは違い、身心ともにまだ若い7期OBたちは、古着とカンパぐらいは集めようとその場で取り決め、十人近くが幹事となり、年の瀬には、それなりのクリスマスプレゼントを贈ることができた。

そのプレゼントは年に2度に増え、数年後からは、何人かが連れだち、アンコールワット見学を兼ねてオー村を訪ね、子らとの交歓会をはじめた。なんとカンボジアには古来の民族音楽しかなく、子らは西洋のドレミの音階を知らなかった。

それを聞いたピアノの巧みな一人は、キーボードピアノ3台を持参して寄贈し、子供たちと合同音楽会を開くなどして交流の度を深めた。

横浜双葉の教え子や学園関係者の支援も同時進行で拡大しており、Tシャツ集めや文房具、資金作りのための支援コンサートなどが、湘南の地で定期的開催されるようになった。

それから7年後の真夏。意欲のある児童生徒への奨学金制度も発足させていた漆原君は、シェムリアップのホテル内のプールで水泳中、心筋梗塞のために急逝した。

鎌倉雪の下教会でひらかれた漆原君の会葬は、聖堂に入りきれない千人をこす参列者で埋まった。ミサの後に7期生たちと食事した席で「おれたち俗人の免罪符だったな」と自称「転び伴天連、の私がいうと、「俺はクリスチャンじゃないが、フォス校長たちが生徒に求めていた、栄光精神の人ってことだろう」と元テレビマン氏もうなずいた。

恭子夫人はその後も残って支援をつづけている。奨学生

の中の男女二人が、高卒後に2年間の教員養成学校に進み、さらに2年の研修も終え、カンボジアでは難関とされる公立小教師の資格を得て、なんとふるさとのオー村の先生になって戻ってきたという。亡き夫もきつと喜んでますと、恭子夫人はご自身で発行している『カンボジア通信2019年冬号』に記している。

高卒の肩書きはカンボジアではエリートである。他にも有名ホテルやレストランに就職したり、幸せな結婚ができた女性もあらわれた。漆原夫妻のキリスト者の名にふさわしい「隣人愛」は、オー村の子らと村人たちに、彼らが夢想だにしなかった希望と、やればできるという誇りと自信を、いまでも贈りつづけている。

その様子を見知った時、「これぞ華嚴の波動だ」と、私は一人感じ入った。「華嚴の波動」とは思いやりや善行の広がりをさし、それが多民族ほど、文化度の高い、安全で暮らしやすい社会をつくれる。

原初仏教と『華嚴経』

仏教には2種類ある。釈尊が悟道した35歳から寂滅した80歳までに説いた生き方論が、原初の仏教であり、『阿含経＝あごんきょう(伝わったお経、の意)』や『法句経(真理の言葉集)』が有名である。

初期の仏教集団を庇護していたのは、ヒマラヤ山麓のコーサラ国王だった。王はある時、この世で最も大事なものはやはり自分自身だと実感し、そなたはどうか、と茉莉花(マツリカー)妃に質問した。すると「私も自分が一番可愛く、次があなたです」という正直な答えがあった。だが自分第一という考え方は、釈尊の利他の精神に反するのではないか。国王が急ぎ祇園精舎に釈尊を訪ねると、次の偈(げ)が返ってきた。

「人の思いは、世界のどこにでも自由に飛んでいくことができる。しかし、どこに行こうと、自分より愛しいものを見つけることはできない。されば、自分を愛する者は、他人を害するなかれ」

それは「不害の教え」として語りつがれ、その問答から約200年後、インド統一をはたしたアショカ大王は、仏教を国教と定めて、全土の石柱や磨崖に、釈尊の教えを彫りこませた。その偈(げ)により、人類は狼の論理から羊の論理に転換したと位置づけられている。

もう一つの仏教は、釈尊の没後300年ほどしてから創作されはじめた教典群で、大乘教と呼ばれている。阿弥陀経、大般若経、法華経、涅槃経など、深甚で空想力に富み、じつに面白いのだが、釈尊が語ったものとは言えない。

ところが、筑摩書房の平易に書かれた「仏教全集」に目を通すと、空想の所産の『華嚴経』が、なぜかピンときた。人と人とのつながりを「網と真球」に見たてた解説が、妙に腑に落ちたのである。

華嚴経の本尊は、あの奈良の大仏様である。仏国土によ

る国家の安寧を目ざした聖武天皇は、全国に護国寺を建立し、本山の奈良東大寺に、盧遮那仏(るしゃなぶつ)を安置した。真理の光で世界の隅々を照らしたす仏とされ、聖武天皇が大仏像を黄金で塗装しようとしたのは、庶民に分かりやすく示したかったからである。

その華厳経によると、人は、縦横上下に無限に広がるジャングルジム状の網の、すべての結び目に付着している水晶玉だといふ。それも傷ひとつない完璧な真球なので、一個ごとに全世界が映しだされており、一つが揺れると、その波動は無限に広がり、思いがけない場所の玉へと伝わっていく。無限に伝わる網とは物質ではなく、形には見えない「心」ということだろう。

漆原夫妻にたとえると、お二人の真球の波動が、オー村の人たちや、栄光仲間、双葉関係者らの真球に伝わり、いまなお揺らしつづけていることになる。

支部活動

栄光学園同窓会関西支部設立総会(2021. 3. 13)報告

西川健誠 (34期)

『アラムナイ』92号でお知らせした通り、2019年秋から始動していた栄光学園同窓会関西支部の立ち上げですが、当初20年3月に計画していた設立総会はコロナ禍のため、直前で開催を断念しました。その後、幹事団で協議を重ねた上1年延期とし、コロナの感染状況を睨みながら、昨3月13日午後、全員zoom参加という形で設立総会の開催を果たしました。以下はそこご報告です。

栄光卒業生の行事らしく、まずは瞑目を行ってから、武優樹(66期)学生幹事の総合司会で開会、幹事団から金田真己(28期)事務局長からこれまでの経緯説明を含んだ開会の辞がありました。その後、山田宏幸(30期)同窓会会長による挨拶、引き続き六甲伯友会副会長山本裕計様、六甲伯友会事業委員会委員長岡本剣様、および広島学院翠友会関西支部副支部長三宅秀芳様による祝辞を頂きました。学校・職場等での姉妹校卒業生同士の出会いも紹介され、イエズス会学校の繋がりを感じました。続いて議事に移る前に、米国・シリコンバレーから参加された西義雄(6期)さんからの話を伺いました。半導体研究者として日本の企業・アメリカの企業で働かれた後、アメリカの大学にスカウトされた経歴、そしてその経歴の

中で学ばれた、個人レベルでの相互信頼に基づく国際的ネットワークづくりの大切さを説く西さんは、グローバルな活躍をされる卒業生ならではのものでした。

役員選任、会則制定、同窓会本部への登録の三議案とも承認された所で、金澤和夫(23期)支部長からの今後の活動方針説明があり、総会本終了。小休止を挟んで、金澤支部長の講演「関西はひとつ？ひとつずつ？—広域連合・万博・3空港」に移りました。兵庫県副知事として、もう一段元気の欲しい関西地域の活性化に直接に取り組まれている金澤さんの、関西広域連合、2025年関西万博、伊丹・関西・神戸三空港一体運用化に関わる講演に、関西歴の短い支部会員からも長い支部会員からも質問が出ました。スクリーンショットを用いた参加者の集合写真撮影を済ませてから、66期生(島崎克彦さん、武優樹さん)から4期生(小倉修三さん)まで、卒業年次が高い順に、参加者の自己紹介を行いました。

4期生・小倉さんが自己紹介の中で披露して下さった所によると、1960年代に一度、当時のフォス校長が来阪の折、関西地方の栄光卒業生(1期から9期まで)が集まった、とのことでした。その時点から計算すれば、今回の同窓会関西支部設立は60年近くの時間をかけて実現したプロジェクトという事になります。また今回の支部設立で、これまで失せがちであった栄光同期生・同窓生との繋がりやのチャンスが出来た、と仰って下さった会員も少なからずおられました。幹事の一人として、この度成立を見た栄光学園同窓会関西支部が、在関西・関西と縁のある卒業生の広い交流の場となれば、と願っております。また会員の皆様の、支部活動への積極的参加を心よりお待ちしております。



関西支部設立総会にリモート参加の皆さん(その一)



関西支部設立総会にリモート参加の皆さん(その二)

荘厳なグレゴリオ聖歌が歌われました。

私も中2の時受洗し、[“My Sunday Missal” with Latin English Ordinary]と云う小冊子(今でも持っています)で侍者のラテン語を懸命に覚えミサ答えをしました。今でも、例えば、Confiteor(告白の祈り)「Confiteor Deo Omnipotenti…… Mea culpa Mea culpa Mea maxima culpa ……」など語んじております。

第Ⅱヴァチカン公会議に於いては、それまでラテン語で行われていたミサ及び典礼の諸儀式が各国語で行われてもいいとなりました。この各国語で行われるミサは1970

年度版ローマミサ典書に従う「ノヴス・オールド」ミサ (Novus Ordo Missae)とよばれます。日本カトリック教会に於いてもこの日本語ミサが殆どとなり、ラテン語ミサに取って代わったかの様に思われております。小教区における主日のミサはすべて、日本語によるミサと云っていいでしょう。しかし、第Ⅱヴァチカン公会議後制定された『典礼憲章』(第36条 第116条)でも自国語も使用は認めるが、基本はラテン語典礼であり、グレゴリオ聖歌が首位を占めるとあります(ヴァチカンの道誌第19巻 P22)。

加えて、ベネディクト16世前教皇は、2007年7月7日付けにて、自発教書『スモール・ポンティフィカム』(自発教書)を交布されました。ここで単一のローマ式典礼に、2つの様式、



「教会ラテン語への招き」 田淵文男監修 江澤増雄著 (サンパウロ)

〇〇期、この一冊

各期委員の方に同期の方の著作を一冊選んで紹介文を書いていただく依頼をいたしました。今号でご紹介する以降も募集を継続しますので、まだご連絡いただけない学年の方もぜひ著作をご紹介する記事をお寄せください。

1期、この1冊

熊岡 醇 (1期)

1期は江澤増雄君の『教会ラテン語への招き』を紹介しました。

この本は、イエズス会会員田淵文男神父(神学博士)監修のもと、2002年8月、サンパウロより出版されました。その後、江澤君は2004年『教会ラテン語・事始め』、2006年『福音書のラテン語テキストを読む』、『教会ラテン語・文法のあらまし』をサンパウロから出版しました。

第Ⅱヴァチカン公会議(1962年～1965年)以後の日本のカトリック教会に於いては、ローマカトリック教会の「公用語」であるラテン語とグレゴリオ聖歌に対する教会員の関心も知識も低下しています。司祭養成機関である神学校のカリキュラムでも、ラテン語は必須科目ではなくなっています。こうした現状下、一般信徒に教会ラテン語への関心を持ってもらいたいとの願いが、本書の根底になっています。以下、江澤君の本書で述べる教会ラテン語の本質とその歴史に就き、私見も織り交ぜつつ紹介してまいります。

第Ⅱヴァチカン公会議前は、主日ごとに信徒が与る教会でのミサは、司祭と侍者が交互に口にするのは、説教を除いて始めから終わりまで、総てラテン語の祈りで、その間、

トリエント・ミサ（ラテン語ミサ）とノヴスオールド・ミサ（自国語ミサ）の併存を確認公認しました。即ち、荘厳で、美しく、聖なるラテン語ミサは、日本語ミサに取って代わられたわけでもありません。

江澤君は、カトリック教会が2000年に近い時をかけてはぐくみ育ててきた、典礼、神学、哲学、思索、信心などの道具となってきた言語はラテン語に他ならないとしております。こうした観点から、ラテン語を通してカトリシズムとその世界観を知ること、本書は極めて有意義な書であります。

四期、この一冊

『わたし 行きます ー回想 ヘルムート・ウルフ先生ー』
《ウルフ先生回想文集刊行会》編 編集長：梅津尚志（四期）

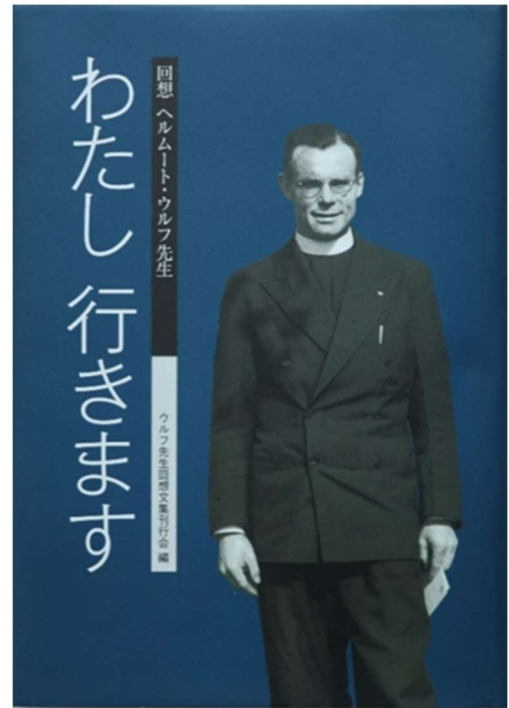
鈴木宙明（4期）

四期には大ミリオンセラーを書いた先生もいますが、彼の著書を取りあげてトクトクと語る無謀な同期生は、《エイコーの壁》にはばまれて、きつくないことでしょう。

格好の本を見つけました。『わたし 行きます ー回想 ヘルムート・ウルフ先生ー』です。四期の梅津尚志君を編集長として2009年9月に刊行した400ページをこえる大著（先生の声のCD付）です。（《ウルフ先生回想文集刊行会》編集・発行）

四期生は、今は凍結・閉鎖中ですが、四期ホームページを持っていました。その中の企画で【仰げば尊し…師を偲ぶ】掲載を進めた折に、「ウルフ先生は・・・？」「誰も書かないのかなあ！」の声が聞こえもしました。でも、ウルフ先生については、そのホームページへの寄稿を募る以前に、立派な書物として『わたし行きます』が出版されていたのです。多くの栄光関係者のご協力のできた本ですが、多くの四期生も寸描「忘れえぬウルフ先生の姿」を寄せています。物理部ウのこと、公教要理のこと、結婚や家庭のこと・・・この名著の編集長をなさった梅津さんの言をご紹介します。

「四期ホームページの企画【仰げば尊し…】への寄稿が呼びかけられる一年前の2009年にウルフ先生回想文集『わたし行きます』が出版されました。この書の第三章「忘れえぬ先生の姿 ーウルフ先生寸描」は、生前の先生の姿を活写するために、印象に残る先生の言葉や行為についての寸描を広く募って編纂した、いわばウルフ先生言行録です。寄稿は100編にのぼり、四期生からは27編が寄せられました。」



写真撮影：高嶋邦安

上でも触れましたが《四期ホームページ》は、数年前まで、四期生の情報交換と相互交歓の場でした。そこに記載されたほとんどの四期生からの貴重な寄稿を転載した文集冊子は、これまでに二冊発行されています。半寿記念に作成したその第貳輯『メモリーズ』には、この『わたし 行きます』執筆陣からの特別寄稿が載っています。この90ページの『メモリーズ』も今回のこの企画でご紹介できる《四期 この一冊》かも知れません。ヨソの期の同期会の活動を覗き見できる格好のツールかも知れません。

なお、今回ご紹介した『わたし 行きます』は、すでに完売そして絶版です。閲読をご希望の向きは、同窓会事務室をはじめ、鎌倉市図書館や周辺の公立図書館やカトリック教会に寄贈／収蔵されていますので、照会してください。

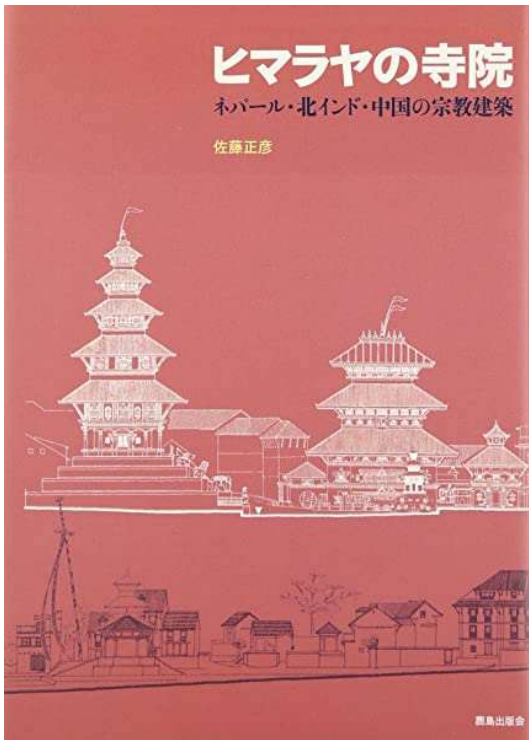
また、四期冊子『メモリーズ』をお望みの方のため、同窓会事務室に数十部をお届けしてあります。多分無料です。ご注文・ご高覧を。

5期、この1冊

佐藤正彦（5期）

5期は佐藤正彦の『ヒマラヤの寺院 ネパール・北インインド・中国の宗教建築』（鹿島出版会2012年刊 A5判 320頁 定価4,200+税）を紹介します。

著者は、建築史家である。建築を学ぶ最良の教科書は



佐藤正彦著『ヒマラヤの寺院 ネパール・北インド・中国の宗教建築』（『民俗建築』第141号（2012年5月刊）に書評あり）

実物であるという信念を持って世界中の建築を見て歩く。そんな中の一つが、ネパールの寺院であった。首都カトマンズ、旧首都パータン、バクタプルは、寺院の都市である。本書は、独特の美的感覚をもつ寺院建築の全貌に迫る。20余年の歳月をかけて実測調査した245棟の平面図と写真と位置図及びコラム15編を掲載する。目次は、次の通りである。

プロローグ—なぜ寺院建築なのか

第1章 ネパールの寺院建築

1. 歴史と沿革
2. 命名法
3. ヒンドゥー教と仏教、ラマ教
4. 立地と配置
5. 平面構成
6. 方位
7. 構造デザイン・材料
8. 各部詳細
9. 装飾
10. 遺構から読む様式の変遷

第2章 ネパール建築の源流を探る—北インド建築

1. 材料
2. 組積構法
3. 塔門・欄楯・トーチナ
4. 屋根形式とシカラ
5. 平面形式—石窟寺院から岩石寺院へ
6. 内部空間
7. 外部空間—石柱・沐浴池

第3章 中国建築とのつながり

1. 構造—石造・レンガ造・木造
2. 色彩・装飾の造形
3. 内部空間と外部空間

第4章 カトマンズの寺院建築

1. 都市構造
2. 石造
3. レンガ造
4. 仏塔

第5章 パータンの寺院建築

1. 都市構造
2. 石造
3. レンガ造
4. 仏塔

第6章 バドガウンの寺院建築

1. 都市構造
2. 石造
3. レンガ造

エピローグ

2016年春、駒澤大学仏教経済研究所研究員の辻井清吾氏より以前ネパール大使館勤務の菊池法純氏を紹介された。用件は、復興に本書掲載の図面等の利用許諾であった。ネパールは2015年4月25日M7.8の巨大地震により3都市の建物が壊滅状態になった。本書が役立ったことは望外のよろこびであった。

8期、この一冊

天野芳文（8期）

上智大学外国語学部ロシア語学科教授だった8期宇多文雄には十数冊の著書がある。ロシア語の文法書・教科書、ロシア・ソ連の政治や歴史に関する研究書、そして本人が「道楽モノ」と呼ぶ、旅行や料理などに関するものからなる。ここで紹介しようとするのは、言うまでもなく第3のカテゴリーに属する1冊である。この類の本ではペンネーム小町文雄が使われている。『グルメの教養 「食の子ども」から「食のおとな」へ』（小町文雄、アーバンプロ出版センター、2016年）。

題名どおりの内容の本である。食のプロでも研究者でもなく、料理とは何か、味覚とは何か、フランス料理とは何か、和食とは何か、などを真正面から論じ、食と料理に関する名著を紹介し、自宅でパーティーのメニューから演出までを示している。「道楽モノ」としてはなかなかの「野心作」である。

しろうとのくせに、という批判には「自分はアームチェア・

ガストロノームだ」という逃げ口が用意されている。部外からの見物人である、ということをおぼろげに隠そうとはしない。とはいっても、内容の性格上解説だらけになり、職業癖もあって、上かの目線になりがちになる。この点は、全編を「姪の美沙ちゃん」に教えかせる形をとって居直った形だ。この2点を受け入れるなら、けっこうおもしろく読めるのではないだろうか。

宇多との付き合いは長い、彼が料理を始めたのは50歳を過ぎてからである。それまではただの食いしん坊にすぎなかった。あるときから佃煮だの、干物だの、燻製だのを自分で作るという妙なことに凝りだし、本格的なコース料理、パーティー料理を作るまでになった。我々同期の集まりも時々恩恵にあずかったが、長いこと教え子の集まりを主宰し、腕を磨いたらしい。何回も呼んでもらったが、その度に違う趣向が凝らされていた。

いざ始めると、多くの男性にわかコックと違って、包丁をはじめとする道具類を集めたり、魚のさばき方に挑戦したり、一日かけて手間のかかる凝った一皿を作ったりする方向でなく、怪しい手つきながら手抜きで本格的なコースを作ってしまう方向に進んだ。「おれのは料理というよりも、ディナーやパーティーのプロデュースだ」と本人は言う。その辺のことは本書の最後の2章にまとめてある。

私に言わせると、この本の魅力のひとつは「読むガストロノミー」と題された文献紹介である。文献とは言っても硬いものではない。谷崎潤一郎から漫画家の東海林さだおまで、調理人だけではなく、作家、研究者などが書いたさまざまな食物、調理関係の書物の紹介である。ふつう文献紹介というと書名の羅列になるが、ここでは取り上げる書物すべてから、

数行ながら引用し、解説をつけてあるから、本当の意味で紹介となり、たくさんの本を読んだ気になるし、ちゃんと読もうか、という気にもなる。

ふつうの食道楽家はあまり理屈を言わない。いわゆる食味随筆は、理屈っぽくなるのを避けて、何とか味の法悦を伝えようとする。研究書・解説書を書くのは専門家である。中年を過ぎてからこの世界に踏み込んだ宇多は、その辺をごちゃまぜにして「グルメの教養」なる世界を描き出した。これも本人の理屈っぽい性格の現れなのだろう。

12期、この一冊

大野邦夫（12期）

12期は富田武君の執筆した「日ソ戦争1945年8月～棄てられた兵士と居留民」を紹介します。

この本は昨年7月にみすず書房から発刊されました。その帯には「触れたくない敗戦史ゆえに放置されてきた日ソ戦争(1945.8.9-9.2)の戦闘の詳細と全体像はいかなるものであったか。敗戦後75年目に初めて明らかになる真実。」と記されています。戦略的発想と政治的駆引の能力に乏しかった日本の戦争指導者たちが招いた、兵士と民間人への悲惨な戦争の結果が描かれています。



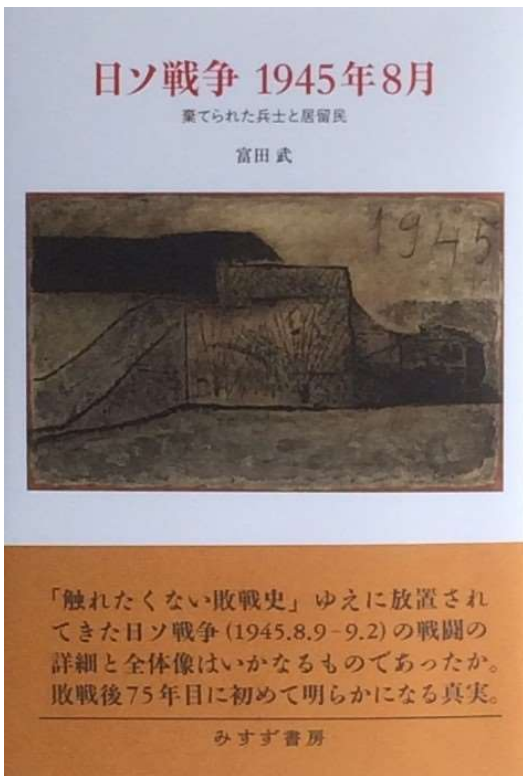
栄光ヒュッテ前のふもと会

本文は「1. 戦争前史 -- ヤルタからポツダムまで」、「2. 日ソ八月戦争」、「3. 戦後への重い遺産」の3章構成になっていますが、中心は第2章の事実経過です。この章では、最近機密解除されたロシアの文献を参照・引用し、それを日本の記録と対比させて「1. ソ連軍の満州侵攻と関東軍」、「2. ソ連軍による満州での蛮行」、「3. 捕虜の抑留から移送へ」という節構成で客観的に分析考察されています。

特に戦争の残虐さと悲惨さを感じさせられるのは、第2節の「ソ連軍による満州での蛮行」で、読むのが辛い記述が続きます。「麻山事件」、「葛根廟事件」、「佐渡開拓団跡事件」



『グルメの教養 「食の子ども」から「食のおとな」へ』(小町文雄、アーバンプロ出版センター、2016年)



富田 武著「日ソ戦争1945年8月～棄てられた兵士と居留民」(みすず書房)

などの項では、ソ連軍による無慈悲で残酷な民間人の大量虐殺が記されています。そのみならず、「沖縄にならえ」とばかりに関東軍兵士による集団玉砕、集団自決が強行され、日本人兵士が、従わない民間日本人を殺害する状況が記されています。このような状況を知るだけで、戦争は決して繰り返してはならないと考えさせられます。

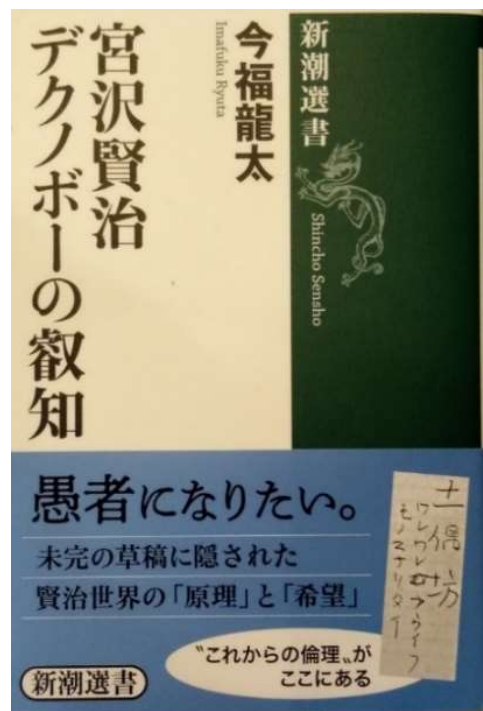
著書中のコラムに、レイテで自決した大伯父と、シベリアに抑留されたもう一人の大伯父の消息が述べられています。富田君が本書を執筆した背景には、この二人の大伯父の存在が大きいと思われます。

著者の富田君と私は山岳部の山仲間です。12期山岳部員の母親は、我々が中学の時に「ふもと会」というグループを結成して情報交換しました。母親仲間で蓑毛からヤビツ峠を越えて栄光ヒュッテまで行ったこともありました。そのリーダーが富田君のお母様の富田富佐子さんと、二人の大伯父は彼女の伯父でした。

ふもと会が栄光ヒュッテを訪れた際の写真を掲載しますが、天狗さんと堀先生に挟まれた後列中央が富田富佐子さんです。写真の皆さまは既に他界されていますが、ふもと会メンバーの母親の方々には、生死をさまよった敗戦の前後に、我々を生んでくれたことを感謝せざるを得ません。その後の平和な世の中で、後期高齢者まで生きてこられたことをつづく幸福に思います。

22期は今福龍太君の執筆した「宮沢賢治 デクノボーの叡智」(新潮選書)を紹介しします。

この本は、2019年9月25日に新潮社より発行され、第30回宮沢賢治賞と第18回角川財団学芸賞を受賞していますが、宮沢賢治の著作の足跡と背景を詳細に解析した長大な論文とも言えるもので、かなり読み応えがありますが、読後には高い山を登ったときのような達成感がありました。この本を知るためには今福君のバックグラウンドを知る必要があると思いますので、まず簡単に紹介します。今福君は、本校卒業後、東京大学法学部を卒業。その後は、メキシコ湾からカリブ海周辺、南米にて、文化人類学を中心とした研究活動を続けたのち、札幌大学教授を経て、2005年より東京外国語大学教授に就任しました。また、2002年より、「奄美自由大学」を創設し、主宰しています。私は、今福君とは、高校卒業後以来会っていませんでしたが、ちょうど今福君が、東京外国語大学教授になる直前の頃、私が横浜市大病院に勤めていることを彼が知って、今福君のご家族のことで相談を受けたことがきっかけで、しばらくぶりに再会しました。それから、55期の長男(菅野亮)が東京外国語大学へ進学して、今福君にお世話になったり、横浜市大へ来て、講演してもらったりしました。そんな縁もあって、今福君の著作は、何冊か読んできました。今福君の本は、どれも力作ばかりで、難解なものもありますが、ここで紹介する『宮沢賢治 デクノボーの叡智』は、比較的分かりやすく書かれていて読みや



今福龍太著
「宮沢賢治 デクノボーの叡智」

すく、最後まで一気に読み通してしまいました。この本では、イーハトーブと名付けた賢治の理想郷の岩手県の自然に対する畏敬の念が、宮沢賢治の作品にどのように反映されているか、詳しく書かれています。山、海、風、宇宙、石、熊などの自然に対する畏敬の念と北への憧憬が、賢治の作品には根底にあります。海に関しては、はじめて賢治が太平洋を見たときにちょうど同時代にタイタニック号が大西洋で難破したことに思いをはせ、「銀河鉄道の夜」の中でも大西洋で遭難した船に乗船していた人物を登場させています。山に関しては岩手山がかつて噴火した火山であることで、その存在を捉えています。賢治の作品のほとんどは未完ですが、その典型として、有名な「銀河鉄道の夜」があります。この作品は、賢治の憧れの北方の地であるベーリングへの旅をモチーフにしたものですが、「北」という方角は、何か人を引き寄せるものがあるようで、それが、「氷河鼠の毛皮」でも憧憬の地への旅として描かれています。また、作品の背景を今福君の豊富な知識に基づいた多くの文献を引用しながら、今福君独自の視点で詳しく考察しており、科学論文のような感じになっています。宮沢賢治の作品として、もっとも有名な「雨ニモ負ケズ」の詩に書かれている「デクノボートイワレ、----、ソウイフモノニワタシハナリタイ」という逆説的な愚者への願望がありますが、これは、賢治の謙虚な悟りに近い願いなのかもしれません。賢治の自我は、みずからの「農の人」としての実存を、アメリカへ渡った清教徒たちに軌跡を重ね合わせようとしています。賢治の詩に関しては、この本では「春と修羅」について、詳しい考察がなされていますが、その詩は、賢治世界を視界する上で重要と思われる。この本の最後の章で、賢治が自分の「死」が迫ってきたときの、賢治の心境が作品を通して解説されています。賢治は、生物学者であるヘッケルの生命哲学から導かれる原理を「万象回帰」と呼び、先に亡くなった妹への思いを自身の「不死」への夢に重ねているようです。

27期、この一冊

佐藤耕太郎（27期）

27期は松村武人君（ペンネーム・芦崎笙）の執筆した「スコールの夜 芦崎笙・著」をご紹介します。

この本は「大企業の典型例であるメガバンクを舞台に、女性総合職第一期生が、本店初の女性管理職に抜擢されたものの、目の前の仕事は“長年採算の取れない従業員200名余の子会社の清算”」。しかも時間をかけて徐々にではなく、新頭取の意向で一気の整理・解雇という話です。

形ばかりのあてがいぶちの初の女性管理職ではなく、生々しい首切りの現場に放り込まれた主人公女性が、組織



スコールの夜、芦崎笙(松村武人)著

と清算される子会社の人間との狭間で苦闘します。

導入からグイグイと設定が刺さります。組織と雇用者、その背景。介護や不登校の家族を抱える者、訴訟リスク、メンタル不調など。かたや歴代トップたちの権力争い・軋轢・意思決定プロセス、そして会社清算に欠かす事の出来ない顧問弁護士など、様々な人物・課題が主人公女性の周囲に次々と現れます。

著者である芦崎笙(松村武人君)は著作時には財務省官僚で、彼の人生で見聞き・経験してきた事が生々しく描写されているのでしょう。第5回日経小説大賞を受賞したほど、そのデビューと作風は世の評価を受けました。推薦文を書いている私の会社でも原作にして、すぐにドラマ化(改題「ゴールドウーマン」・テレ朝動画で今でも視聴できます)。内容はエンターテインメント作品の味付けとなりましたが、小雪さん・鈴木保奈美さんらの女優陣の魅力が映える作品となりました。

意思決定に「女性の立ち回り」は？この「出世」が意味するところは？日本社会で女性は男性と真に対等に闘っているのか――。

先の五輪組織委でのトップ発言に「女性が多い会議は長い」との蔑視発言がありました。現代でもなお、組織の中で女性が抱える問題は山積みです。

この2021年でも、読中に読後に問題提起となる作品です。皆さまが頁をめくりながら「自分はこう考える」との思いが浮かびながらの読書となるでしょう。

芦崎笙「スコールの夜」。「女性の時代」の闇にまで斬り

込んだ特筆すべき作品です。是非お読み下さい。

広報部註:27期には他にも著作が多く、一覧にして掲載してほしい、との声が多くありました。すでにそのリストも受領しておりますが、他学年からも同様の声が挙がっていますので、広報部で対応を検討しております。同窓会ホームページ等で掲載する際には告知させていただきます。

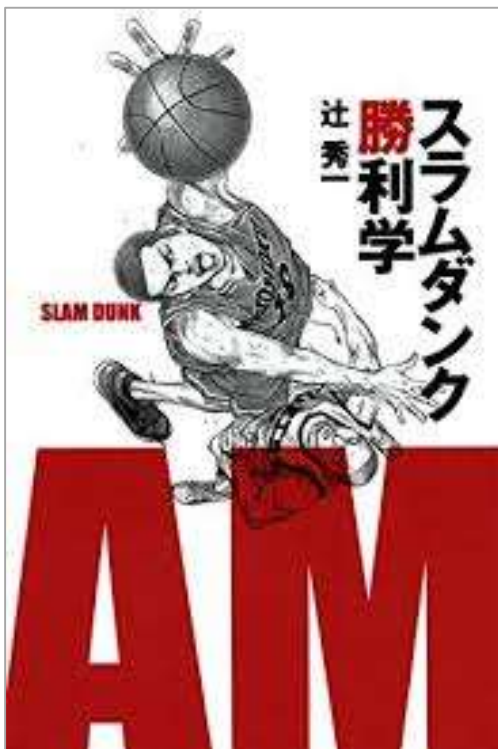
28期、この一冊

藤野啓介 (28期)

あるスポーツライターがこんなことを書いています。

「アメリカ発の野球やアメリカンフットボールは実際にプレーしている時間は1試合あたり20～30分程度しかない。一方、欧州発のサッカーやラグビーは、試合が始まるとハーフタイムを除いてあまり途切れることがない。両者は観戦のスタイルが大きく異なり、アメリカ発は見る者にピッチャーが次に投げる球種や監督の次の一手など想像を巡らせる時間を与えてくれる」

この分類に従えば、バスケットボールはアメリカ発のスポーツとしてはやや異色かもしれません。監督やコーチがベンチから大声で指示することはできるものの、試合の流れを左右するのは、あくまでもコートを動き回る選手の瞬時の判断です。だからこそ一瞬のスキが逆転を許すスリリングな展開から目を離せないわけですが、野球などに比べて選手の心理状態を外から読み取ることが難しいとも言えます。



スラムダンク勝利学、辻秀一著

バスケ漫画の金字塔『スラムダンク』(井上雄彦作)は、主人公の桜木花道はじめ選手や周囲の気持ちの動きをつぶさに描いた作品として知られますが、読者はやはりバスケ好きに偏りがち。それではもったいない、その魅力をもっと多くの人に伝えたい…。そんな想いがあふれ出して一冊の本になったのが、今回ご紹介する『スラムダンク勝利学』です。

第一章「根性は正しく使う」を著者の辻秀一さん(28期)は次のように書き出します。

「『スラムダンク』はきわめて奥が深く、バスケットボールを超えたスポーツ指導書、さらには人生の哲学書といっても過言ではありません。しかし、何気なく展開されているため、そのメッセージをくみ取るのは大変です」

辻さんは中学・高校時代を通じてバスケ部で活躍、卒業後もスポーツドクターとして様々な競技のアスリートと親交を深めてきました。2004年にはバスケのプロチーム「東京エクスセレンス」を立ち上げています。『スラムダンク』から「勝利するための考え方」「学ぶべき考え方」を読み取り、広く伝える仕事は、まさに「はまり役」と言っていいいでしょう。

かつて辻さんのブログで紹介されていましたが、なでしこジャパンの守備の要、岩清水梓選手は本書を愛読されていたようです。2015年の東スポのウェブサイトから引用します。

「(『スラムダンク勝利学』は)私の教科書。迷ったり、もやもやしたときに、この本の中の言葉を思い出して集中している。カナダにも持っていく」

別のサイトのブックレビュー欄には、こんな一般の読者のコメントも載っています。

「もっとも印象に残ったのは、今に集中するということの大切さについて。未来を心配し、過去を後悔することが、不安を生み出し実力を発揮できなくなるということ。さらなる高みを目指すには今に集中して、全力を尽くすことと、情熱を持つこと、日頃からその心の習慣を身につけるようにしたい」

岩清水選手のようなアスリートではない人々にも『スラムダンク勝利学』が刺さるのはなぜでしょうか。こんな一節にヒントがありそうです。

「バスケットボールはハビット(習慣性)・スポーツといわれる代表的な競技です。習慣化するほど練習したことが、やっとな試合で発揮できるのです」

この場合の練習の成果とは、スポーツだけでなく、顧客を相手にしたプレゼンテーションなど心や頭を動かす仕事全般に当てはまります。「日頃の意識をスタート地点としてセルフイメージを高める」。実力を発揮するためのこんな王道を漫画のシーンを織り交ぜながら教えてくれる『スラムダンク勝利学』は、特に若い皆さんにお勧めしたい同期の一冊です。

川村貞知（37期）

崎川修氏(37期)著書『他者と沈黙 ～ワイトゲンシュタインからケアの哲学へ』(晃洋書房)のご紹介。

崎川氏は上智大学で哲学を学び、現在はノートルダム清心女子大学で教鞭をとっておられる、現代哲学、人間学、キリスト教倫理専門の哲学者・教育者です。

この本は崎川氏のこれまで20年の研究の集大成として昨年上梓されました。

以下、崎川氏のメッセージです。

“コロナ禍は私たちの生活を一変させました。いのちの切迫した危機が声高に語られる一方で、それを守るために必要な「距離」は、当たり前の日常を変質させ、日々の暮らしを支える様々な「ケア」の営みもまた危機に晒され続けています。

距離に隔てられる中で、私たちはメディアを通じて「言葉」「表現」を伝えあい、そこに新たなケアの可能性を求めてきたとも言えます。しかしまた「言葉」は人を傷つけ、あらたな距離を生み出す危険性も秘めています。新たな危機の時代に必要な「ケアの眼差し」は、瞬時にひろがる「共感の言葉」よりも、むしろ時間をかけた「距離の静けさ」の中で、醸成されるのではないかと、そしてそれが私たちの傷ついた日常を再生させてくれるのではないかと、私は考えています。

本書では「沈黙」をキーワードとして、二つの大戦の時代、苦悩の中を生き抜いたワイトゲンシュタインの哲学を読み解きつつ、人生における様々な悲嘆(グリーフ)に向き合う言葉とケアのあり方を論じました。哲学に関心をお持ちの方、また「死生学」や「グリーフケア」に関心をお持ちの方、ぜひお手にとっていただけたら幸いです。”

ちなみに装丁は、同期でデザイナーの私川村がデザインさせていただきました。本を手にとった時にヴィジュアルや触感で何かを感じてもらえるよう、パール系用紙や半透明素材を用いて、透明感や神秘性、空間や奥行きを感じさせるデザインで表現しました。建築設計にも携わったワイトゲンシュタインの、厳密な数値を用いたデザインを引用した矩形をキービジュアルに、表紙カバーをはずすとネタが判明する仕掛けが施されています。

高校生の時、栄光祭で販売する彼と仲間たちの文芸同人誌の、表紙をデザインしたことがありましたが、それ以来35年ぶりのコラボとなり感慨もひとしおでした。

(帯文より)

“言葉によって世界に触れ、
(沈黙)を聴くことで、他者に出会う。”

死と再生の経験を照らす、ケアの眼差しへ。

～ワイトゲンシュタインの哲学を起点に、その独特の言語観を

「他者」との関係性から論じつつ、私たち人間の生の在り様と

その行方を探求する。”

(目次)

第1部 ウイトゲンシュタインと他者

他者と沈黙 —ワイトゲンシュタインとニヒリズム

言葉が世界に触れる —『論考』における像と表現

言語ゲームの向こう側 —ワイトゲンシュタインと「人間」の

問題

精神分析・言語ゲーム・他者の心

世界像と他者 —『確実性の問題』再考

第2部 言語ゲームからケアの哲学へ

ケアと他者経験 —言語ゲームから“語りの知”へ

沈黙とともに聴く —グリーフケアと言葉の哲学

魂の在り処 —グリーフケアと対話の哲学

「身振り」としての沈黙 —グリーフケアの哲学

ケアにおける非対称性 —あるいは死者の眼差し



他者と沈黙、崎川修著

石田明久（51期）

近年、細胞農業と呼ばれる、従来動物や植物を育てて得ていた農畜産物を、特定の細胞を培養することによって得る形態の農業への注目が高まっている。2050年には97億人に達すると推計されている世界人口の増加(*1)や、経済発展に伴う新興国での食嗜好の変化によって肉類の消費は2000～2030年の間に約70%、さらに2050年までの間に20%増加すると予測されている(*2)。一方、従来型の家畜生産方式は大量の穀物及びそれを育てるための水を投入することによって支えられており、牛肉1Kgの生産には20トンもの水が必要とされている(*3)。またこれらの飼料を生産したり家畜を放牧したりするために土地も必要となる。そのため、肉需要の増大は水資源の枯渇や森林破壊といった問題を引き起こしている。加えて肉類の需要拡大に供給が追いつかず世界中でタンパク質不足が起きるといった危機が、早くも2025～2030年におけると予測されている(*4)。

この問題に対し、植物由来の代替肉や藻類の活用、昆虫食など、新しい形態でタンパク質を生産することで解決しようとする取り組みが世界中で行われている。その中で51期の羽生くんは、筋細胞といった可食部の細胞を組織培養することで肉を生産する培養肉のアプローチでこの問題に取り組んでおり、培養肉への取り組みのすそ野を広げるためのコミュニティであるShojinmeat(*5)と、培養肉生産を産業的に成り立たせることを目的とした企業のIntegri Culture(*6)という2つの組織の代表を務めている。今回は前者のメンバーの成果を収録した本である「細胞農業通信」を紹介する。

本書に収録された記事は、培養肉生産を特別な設備がなくても安価に実現するための様々な実験結果や、培養肉が普及した場合の産業構造の変化に関する考察、培養肉が文化的、宗教的に受け入れられるかといったことや既存の概念との整合性に関する調査結果など、様々な事柄が題材として取り上げられている。いずれの題材も培養肉を一般に普及させ、流通させているために重要なものであり、培養肉について知らない方は本書を読んで一緒に考えてみるべきと考える。また、当該コミュニティに参加しているメンバーには高校、大学生といった若いメンバーも多く、実験環境も家庭内というものが多数見られた。このような活動は近年のDIYバイオの潮流や情報科学分野におけるユーズ会との類似性を感じ、当該コミュニティの活動の成果が将来の培養肉産業に活かされる可能性を感じた。

なお、本書は同人誌という形態で刊行されており、一般の書店で入手することはできない。しかしメロンブックスといった同人誌を扱う書店やそのオンラインショップ(*7)などで入

細胞農業通信

「自宅で培養肉」からフードテックの最前線へ！



「動物を殺さない肉」は世界を救う？

どうなる農家さん？自分の肉を培養？そもそもおいしいの？

～科学/技術・政治/経済・文化/芸術 全方位評論～

細胞農業通信、羽生雄毅共著

手が可能である。本稿を読んで細胞農業に興味を持った方はぜひ購入して読んでみることをお勧めする。

註1: 国連の世界人口推計(2019年度)

註2: <http://www.fao.org/Ag/againfo/themes/en/meat/home.html>

註3: https://www.env.go.jp/water/virtual_water/

註4: Xin Gen Lei. Industrial Biotechnology. Apr 2018. 74—76

註5: <https://shojinmeat.com/>

註6: <https://integriculture.jp/>

註7: <https://www.melonbooks.co.jp/>

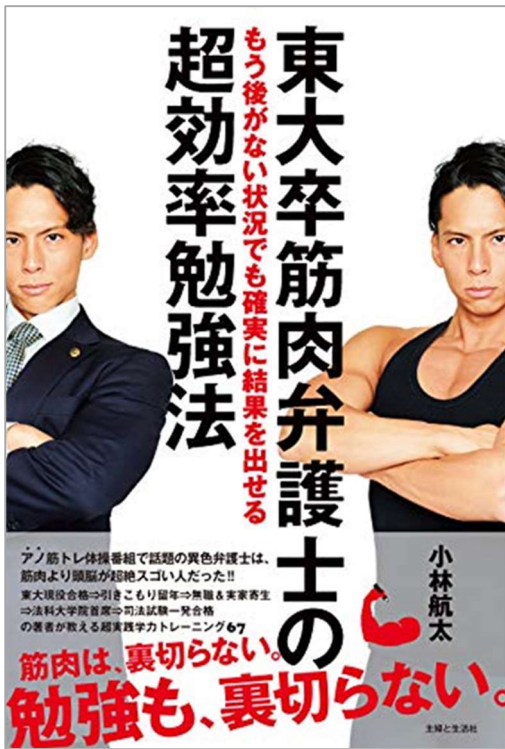
54期、この1冊

三橋敏順（54期）

54期は小林航太君の執筆した『東大卒筋肉弁護士のもう後がない状況でも確実に結果を出せる超効率勉強法』(主婦と生活社)を紹介します。

小林君はNHKの「みんなで筋肉体操」という番組で俳優の武田真治さん、スウェーデン出身の庭師・村雨辰剛さんと共演し、2018年末の紅白歌合戦にも出演しました。彼はコスプレが趣味であり、そのために筋トレを始めたそうです。

勉強本も、筋トレ本も、オタク本も、たくさん出版されています。しかし、3つ合わせた本書は、カオティックで新鮮だと思いました。彼は単なる学歴エリートではありません。大学で怠けていた時期がけっこう長く、東大を6年かけて卒業し



東大卒筋肉弁護士の超効率勉強法、小林航太著

ています。「本職は極度の面倒くさがり」と認めてしまう人間臭さが、本書の魅力を増しているように思えます。

本書は、中学受験、東大受験、司法試験について、人生経験と絡めながら語られており、幅広い年代にお勧めできます。怠け癖がついてしまった大学生や、「神童だったはずの我が子がグレてしまった！留年してしまった！」と子息の放蕩に悩む貴方も、一読の価値があると思います。

勉強法については、基本に忠実であること、焦って段階を上げないこと、範囲を広げすぎないこと、ひたすら反復すること、生活習慣を大切にすることなどが強調されています。一見オーソドックスな内容ですが、ノートにこだわらない連想法や記憶法など、細部にオリジナリティがあります。なるべくシンプルな勉強法で、というのは、盲点な気がします。私が最も驚いたところは、「24年間左利きだったのを、論文試験のために右利きに変えた」というエピソードです。あと、試験本番の昼食は、「あんこ+団子」が小林流だそうです。

目標の設定に際して、小林君は「ゴール地点に巨大な鉄柱を、地中深く思い切り叩き込む」と表現します。肥大した上腕二頭筋を想像してしまいます。法科大学院の教授に「お前はここに一体何の勉強をしに来たんだ…」と呆れられたエピソードがあり、思わず笑ってしまいましたが、首席で卒業というあたりはさすがです。人間はちよっと過剰なくらいが面白いですね。

私が小林君に最後に会ったのは2010年頃だったと記憶しています。小林君も私も大学を留年し、フラフラしている時期で、渋谷でもつ鍋を食べました。その頃は、中高時代と変わらず、論理的なThe東大生、小柄で細身、という印象でした。しかし9年ぶりにテレビで見かけて、その変貌ぶりに目を

疑いました。知能が高いだけの人材ならば、他にも沢山います。しかし、外見の説得力も大事でしょう。筋肉は、言葉と違い、人を欺くことができません。法律家の武器かつ弱点でもある言語を、彼は筋肉で補強しているように見えます。どうせ同じ報酬を払うなら、強くて面白そうな弁護士に頼もうと私ならば思います。

彼は2017年に弁護士登録をし、横浜市内の弁護士事務所研鑽を積みました。その後、2019年7月に独立開業したそうです。その名も『法律事務所ストレングス』(<https://www.law-str.com/>)。一瞬、ハムストリングスと見間違えました。筋肉の咆哮、法理の叫びが聞こえてきます。彼の地元・横浜で、一般民事・刑事事件に限らず、コスプレ関係の法律相談や、筋トレのパーソナルトレーナーまで、幅広い案件を取り扱っているそうです。収入も大事ですが、この柔軟さこそが、自由業の醍醐味なのかも知れませんね。栄光学園の嬉しいエピソードも随所で紹介されています。以上、小林航太弁護士のご紹介でした。今後の更なる活躍に期待しています！

歴史文学散歩

歴史文学散歩(2020年11月25日)

浄智寺から深沢の旧跡を訪ねる

近藤二郎 (12期)

北鎌倉駅に集合した3期～21期栄光卒業生9名とご家族2名にて7kmほどを5時間掛けて鎌倉の尾根歩きと旧跡巡りを楽しみました。2019年11月27日の弘明寺地区巡り散歩以来1年振り今回コロナ対策を弁え施した上での歴史文学散歩となり皆の期待大きく心身に満ちていました。

最初の2時間は小雨のもとでの行進となったり山道では急峻な場所も幾つかあったが声掛け合い落伍者なく無事乗り切りました。鎌倉中央公園の池では小魚を狙うカワセミやじっと身動きせず獲物を待ち伏せするアオサギの姿を観察でき感激しました。

紅葉はイチョウが散り始めてモミジは赤と緑の混在した眺めを楽しむことが出来ました。公園では鈴なりのマユミの実やマムシ草の赤い実を見つけ念の為スマホアプリで即座に名前確認したりマユミの新芽はテンブラで美味いかマムシ草の根には毒あり注意とか話が弾みました。

今回訪問したのは鎌倉五山の四位浄智寺を起点に天柱峰、葛原岡神社、鎌倉中央公園、御霊神社、大慶寺、等覚寺、梶原景時の墓所、陣出の泣き塔、洲崎古戦場の碑です。この中では鎌倉幕府の榮衰に関わる旧跡に特に注目しました。



1年ぶりの歴史文学散歩(2020年11月25日)

葛原岡神社は鎌倉時代後期の公家日野俊基を祀っています。討幕を計画したとして1331年に捕らえられ翌年6月に葛原ヶ岡にて処刑されたが明治天皇により名誉回復と階位あげられ神社が建立されたものです。

鎌倉幕府終焉の地となった洲崎古戦場の碑文は1333年5月新田義貞の攻めに対し鎌倉方は赤橋守時を大将に迎撃し戦闘すること60数回に及んだものの敗れ90余人が自害したと記載しています。また洲崎から持ち運んだ五輪塔が多数供養されているのが等覚寺で暫し瞑目しました。

鎌倉市深沢には寺分(てらぶん)1丁目～3丁目と命名された約0.7平方kmの地区が存在し南北朝時代から戦国時代に大慶寺の寺領があったことに由来しています。また大慶寺の樹齢700年のビャクシン2本は鎌倉市の天然記念物に指定された樹木で年月を超えた生命力に感嘆しました。

コロナ禍を乗り越えて2021年3月30日の歴史文学散歩にて小石川後樂園、伝通院、礪川公園を歩こうと確約し散会しました。

2021年度の歴史文学散歩のご案内

三春勝正 (6期)
事業部

同2020年度の歴史文学散歩は、本年3月30日の「小石川後樂園から伝通院を歩く」を残し、これまでに次の近藤氏報告の「浄智寺から深沢の旧跡を訪ねる」1回しか行うことができませんでした。3月(19年度4回目)5月、9月の3回は、コロナ禍のため中止せざるをえませんでした。11月の時は、参加希望をされた方に充分体調を整え、マスク持参での参

加をお願いいたしました。当日、午前中に雨は上がり曇天の予報でしたので朝7時頃には皆様にメールで実施をお伝えしましたが、近藤氏のご報告のように「小雨のもとでの行軍」になってしまいました。

今年度も下記の通り年4回の計画を立てております。会員とご家族、関係者の皆様の積極的なご参加を期待しております。

なお、悪天候などによる中止、順延等の決定がありますので、ご参加予定の方は、できるだけ事前に連絡先を同窓会事務所か三春様へご連絡ください。

① 戸塚の大山道を歩く

実施日:2021年5月25日(火)

集合:踊場駅(横浜市営地下鉄)10時

昼食:お弁当

解散:15時頃 距離:7km

踊場駅～踊場と念仏塔～谷矢部池公園～来迎寺～街山八幡社～雲林寺～富士橋～松尾神社～丹後局供養塔～篠塚八幡神社～上矢部石仏群～日月社と姥子社～普光寺と天神社～下岡津バス停解散

大山街道は江戸時代中期から盛んとなった伊勢原市の大山阿夫利神社に参詣するための街道です。お伊勢参りに比べて手軽な物見遊山の地として人気があったようです。中心となる街道は江戸赤坂見付を起点とし、渋谷、二子玉川などを經由する現在の国道246号線とほぼ平行する形で通じておりました。今回のコースは柏尾通り大山道の一部、不動坂近くの富士橋から柏尾川の支流阿久和川に沿って岡津までの道を途中の史跡を訪ねながら歩きます。

② 新旧の町藤沢明治地区を歩く

実施日:2021年9月29日(水)

集合:JR辻堂駅 北口10時

昼食:お弁当or外食

解散:15時頃 距離:約6km

辻堂駅北口～ロボ テラス～藤沢浮世絵館～明治市民センター～小笠原東陽墓～耕餘塾の跡～御霊神社～旧三觜八郎右衛門家住宅～羽鳥向八坂神社～四ツ谷八坂神社～四ツ谷不動尊・大山道「一の鳥居」～一里塚跡と松並木～二ツ家稲荷神社～辻堂駅北口

JR辻堂駅の北側にある明治地区は、市内13地区では最

も面積が小さい地区です。近年、辻堂駅周辺は大型店舗の進出が相次ぎ、都市再生事業である湘南C-Xによる新たな町が形成されており大きな変化を見せています。ただこのような変化の反面、藤沢市の教育文化の発祥の地として誇ることができる耕餘塾跡をはじめ、国の重要文化財の養命寺の本造薬師如来坐像、国登録有形文化財(建造物)に指定された旧三觜八郎右衛門家住宅など歴史的に重要な財産も残された地域となっています。

③ YRP(横須賀リサーチパーク)見学と横須賀の古刹巡り

実施日:2021年11月25日(木)

集合:京急YRP野比駅 10時

昼食:お弁当

解散:15時頃 距離:7.5Km

京急YRP野比駅～バス～YRP/ドコモ展示場&水辺公園(昼食)～満願寺～腹切りの松～清雲寺～三浦義澄の墓～近殿神社～満昌寺～解散～バス停(衣笠駅・横須賀駅方面)

横須賀リサーチパーク(略称:YRP)は、電波・情報通信技術を中心としたICT(Information and Communications Technology)技術の研究開発拠点として、都心からのアクセスも良好な横須賀市南部の郊外に、1997年10月に開設されました。今回はその中のドコモ R&D センターの見学をいたします。その後中世まで歴史をさかのぼり、三浦一族関連の古刹や史跡を訪ねながらバス停まで歩きます。

④ 名刹池上本門寺から桜の文士村を歩く

実施日:2022年3月29日(火)

集合:池上駅(東急池上線) 10時

昼食:お弁当

解散:15時頃 距離:約6km

池上駅～池上本門寺(五重塔・力道山墓)～川端龍子記念館～龍氏公園～馬込桜並木～熊野神社～尾崎四郎・宇野千代旧宅～熊谷恒子記念館～出世稻荷神社～湯殿神社～郷土博物館～西馬籠駅

現在の大田区、馬込、山王、中央の一带には、大正末期から昭和時代の初期にかけて、多くの文筆家や画家・書家が居住し、互いに交流しながら芸術活動を展開していたようです。そのため、のちにこの一带を「馬込文士村」と呼ぶようになったようです。その生活の様子は尾崎四郎の朝日新聞

連載「空想部落」に、又榊原潤の「馬込文士村」に生き生きと描かれています。

以上2021年度は昨年度中止になったコースに新しく計画したものを加え、計4回の歴史散歩を計画いたしました。興味のあるコースには是非ご参加ください。

参加ご希望の方は同窓会事務局にあらかじめお申込みください。荒天等の場合の中止、順延は前日夕方までには決定ご連絡いたします。そのほか事務局がお休みの日は三春まで直接ご連絡ください。連絡先☎ 090-8854-2087

～ちょっとひとりごと～

栄光学園同窓会会長 山田宏幸 (30期)

コロナも新たなステージに移っていくのでしょうか。徐々にワクチンが出回り始めましたが、この効果が表れ新型コロナウイルス感染症が収束に向かい、東京オリンピック・パラリンピックが開催される、といったシナリオになれば良いですね。しかしウイルスは強敵ですし、変異もするので、そう筋書きどおりにはいかないような・・・ まだまだ先が見えません。

さて今年の卒業式は、コロナ対応のスタイルで行われました。式の日取りは例年通り3月1日。今年は69期生が卒業し、新たな同窓会員、我々の“仲間”になりました。コロナ禍前は、私が卒業したときと同じように、送る在校生も式に参加し、皆で校歌斉唱、また校長先生から卒業生一人一人に卒業証書が渡されました。そして式の後には昼食を兼ねた卒業祝賀会が行われ、卒業生、ご家族、先生方が分け隔てなく大いに盛り上がり、祝い、楽しんでいました。

しかし今年の式は、コロナ対応で、時間を短縮するため卒業証書はクラス代表の4人が校長先生から受け取り、皆での校歌斉唱ではなく、代わりに在校生からのプロモーションビデオ風？校歌“緑なす相模野”のプレゼント。さらには、先生方からのビデオレター風リレー形式の歌のサプライズ動画といった形の様々な工夫が盛り込まれたものでした。例年通りのスタイルで行われた望月校長先生からのお言葉、在校生からの贈る言葉、卒業生からのご挨拶と併せ、今年の卒業式は例年に負けず、コロナ禍のマイナスをプラスに転じさせているのではないかと思える、大変素晴らしい式でした。もちろん、コロナが治まって、皆で力いっぱい校歌を歌い、祝賀会で大いに盛り上がり、卒業をお祝いできればそれに越したことはありません。そのような日がまた訪れることを祈念します。

卒業生代表の挨拶を聴いて、「40年たった今でも、栄光の6年間で培われるもの、価値観は変わらないなあ」と改めて感じたのですが、話の中で、私がテーマ、スローガンとし

ている“繋がる”という言葉が“キーワード”として出てきたときは、ニヤッとしながら「そうそう」と頷いてしまいました。

ようこそ、69期生の皆さん！

これからは同期や仲間との“繋がり”だけでなく、先輩達とも様々、存分に繋がってください。面倒くさいなどと言わずにね。世代が大きく違っても、栄光生というだけで不思議なことに話が合うのです。きっと世界が大きく広がります。そして先輩会員の皆さんも、69期生に負けずに、大いに“繋がり”しましょう。今はZOOMやホームページ、ALUMNIなどで、そしてリアルで繋がることのできる日を期待して。

卒業式での会からのご挨拶で、今年もまた私の“未熟”を感じつつ、ちょっと“ひとりごと”でした。

● 訃報(2020年9月1日以降判明分)

卒業生

田中久美様	(19期)	2019年 1月17日
石川康昭氏	(2期)	2019年10月28日
杉山昇太氏	(33期)	2020年 1月 4日
水谷武治氏	(9期)	2020年 4月 5日
中村敬一氏	(6期)	2020年 4月30日
杉山恭一氏	(3期)	2020年 5月25日
尾島浩氏	(24期)	2020年 6月 3日
白石成廉氏	(10期)	2020年 6月 8日
秋山栄氏	(9期)	2020年 6月16日
南昭成氏	(8期)	2020年 8月13日
細矢徹氏	(3期)	2020年 8月16日
内田和男氏	(2期)	2020年 8月20日
石原薫氏	(6期)	2020年 9月 3日
大河原惟興氏	(2期)	2020年 9月13日
小山民樹氏	(11期)	2020年 9月15日
落合正令氏	(3期)	2020年 9月18日
片山隆司氏	(2期)	2020年 9月21日
滝田誠一郎氏	(10期)	2020年 9月26日
杉山國博氏	(19期)	2020年10月23日
大塚武邦氏	(9期)	2020年11月 6日
吉川健司氏	(16期)	2020年12月10日
鮫島康能氏	(9期)	2021年 1月 1日
久野高雄氏	(4期)	2021年 1月13日
正木隆行氏	(19期)	2021年 1月16日
高須賀洋三氏	(7期)	2021年 1月21日
西川守也氏	(4期)	2021年 1月27日
遠藤真一氏	(27期)	2021年 1月28日
水崎一成氏	(22期)	2021年 2月 7日
中山勇三氏	(5期)	2021年 2月10日
伊藤龍男氏	(7期)	2021年 3月 4日

吉田裕美氏 (8期) 2021年 3月10日

熊木建郎様 (8期) 2021年 3月15日

謹んでご冥福をお祈りいたします。

● 次号(第96号):2021年10月発行予定。

● 投稿歓迎

同期会や支部のイベント報告、個人の体験記などの投稿を歓迎します。標準サイズは文章1,200文字程度+写真1枚。同窓会事務局宛てメールまたは封書でお送りください。

メールアドレス:admin@eikoalumni.org

住所:(本号第1頁にあります)。

● 編集後記

今回初めて一部のページをカラー印刷にしました。今更遅いよというお叱りもあることとは思いますが、全編カラー印刷にするには予算が足らず、予算が足りないなら会費徴収率を上げねばならず、それには会報をOBの皆さんが満足される内容となるよう質を高めよという、なんだか天に唾するような話になっています。もちろん広告を掲載して、その広告料で賄うという方法もありますが、なかなか限られた人数で広告主との契約、広告原稿を管理していくところまで手が回らないのが実態です。今後、皆様からのご意見をうかがって更に検討してまいります。

コロナ禍に苛まれる社会環境は2年目に入り、仕事や教育、生活のすべてに影響は生じ、この同窓会活動も例外ではありません。定期的実施している各委員会の会合もリモートでの参加が当たり前になっています。OBフォーラムなどもWeb開催とすることで、これまでお住まいの地域からは物理的に参加できなかつたり、なかなか会場まで足を運ぶ余裕のなかった方にも気軽に参加いただけるようになりました。一方で、OB全員がITインフラを活用できるとは限らず、リモートでは隔靴搔痒、打ち上げもしたいよという声も少なくありません。早く平穏な日々にもどりたいですね。

そんな中、関西支部が設立総会を行ったことは特筆に値します。本当は昨年、設立総会を予定していたのですが、コロナの影響で延期していました。今回こそはと準備を進めていましたが、結局会場に集まった総会は断念せざるを得ない状況に再び見舞われました。そんな逆境をもZOOMを用いて見事乗り切った支部設立幹事の皆さんの努力には頭が下がります。その中心となって活動したK君とは同期ということもあって、時々様子を知らせていただきました。週末に地道に同窓の方々にお会いしたり、積極的な働きかけで幹事に協力していただける方の助力を得ることができたのも、そんなひたむきな努力の賜物だと思います。お疲れさまでした。そして、これからもよろしくお祈りします。(高橋)